

清里町

福祉に関するアンケート調査

結果報告書

[障がい者・障がい児]

令和2年10月

清里町

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	1
2	本調査報告書の基本的な事項	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
II	調査結果	2
1	回答者について	2
	(1) 回答者	2
2	性別・年齢、障がいなどの状況、ご家族について	3
	(1) 性別、年齢について	3
	① 性別	3
	② 年齢	3
	(2) 手帳の種類	4
	(3) 障がい等の種類	5
	(4) 感じている不安	6
	(5) 現在一緒に暮らしている人	7
	(6) 日常生活について	8
	(7) 主な介助者	9
	(8) 主な介助者について	9
	① 主な介助者の性別	9
	② 主な介助者の年齢	10
	③ 主な介助者の健康状態	10
3	住まいや暮らしについて	11
	(1) 現在の暮らし方	11
	(2) 将来地域で暮らしたいか	11
	(3) 地域で生活するためにあるとよいと思う支援	12
4	日中活動や就労について	13
	(1) 外出の頻度	13
	(2) 外出する際の主な同伴者	14
	(3) 外出の目的	15
	(4) 外出する時に困ること	16
	(5) 平日の日中の過ごし方	17
	(6) 勤務形態	19
	(7) 今後収入を得る仕事をしたいか	19
	(8) 仕事に就くために職業訓練などを受けたいか	20
	(9) 障がい者の就労支援として必要なこと	21
5	障がい福祉サービスなどの利用について	23
	(1) 障害支援区分	23

(2) サービスの利用について.....	24
(1) 現在の利用状況.....	24
(2) 今後の利用意向.....	26
(3) 障がい福祉サービスを利用しない理由.....	28
6 保健・医療・福祉サービスについて.....	29
(1) 定期的に通院している医療機関の有無.....	29
(2) 現在受けている医療的ケア.....	30
(3) 現在受けている町の福祉サービス.....	31
(4) サービスを利用しない理由.....	32
(5) あると良いと思う福祉サービス.....	33
7 相談相手について.....	34
(1) 悩みや困ったことの相談先.....	34
(2) 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先.....	36
(3) 今後特に充実してほしい情報.....	38
8 災害時の避難などについて.....	40
(1) 火事や災害時に一人で避難できるか.....	40
(2) 災害時に頼れる人は誰か.....	41
(3) 災害時に困ること.....	42
9 療育・教育・保育について.....	43
(1) 子どもの療育や教育について困っていること.....	43
(2) 将来どのように生活してほしいか.....	44
(3) 保育所・幼稚園・学校等で充実してほしいこと.....	45
(4) 子どもの将来に向けて不安や心配なこと.....	46
10 権利擁護について.....	47
(1) 差別を受けたり嫌な思いをしたこと.....	47
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場所.....	47
(3) 成年後見制度について.....	48
(4) 成年後見制度の利用状況・利用意向.....	49

I 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、新たな「障がい者計画・障がい（児）福祉計画」の策定にあたり、町民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握することを目的に実施した。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療受給者証をお持ちの及び特別児童扶養手当受給者、難病交通費を申請している方、障害福祉サービスを利用されている方
配布数	300 票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和 2 年 8 月
調査地域	清里町全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	300
有効回収数	165
有効回収率	55.0%

2 本調査報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

①比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して算出している。

従って、合計が 100%を上下する場合もある。

②基数となるべき実数は、“n = ○○○”として掲載し、各比率は n を 100%として算出している。

③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1 人の回答者が 2 つ以上の回答を出しても良い問である。従って、各回答の合計比率は 100%を超える場合がある。

Ⅱ 調査結果

1 回答者について

(1) 回答者

問1 お答えいただくのは、どなたですか。

本調査の記入者は、「本人」が 63.0%、「本人の家族」が 15.2%、「家族以外の介助者」が 7.3%となっている。

(%)	本人	本人の家族	家族以外の介助者	無回答	n
全体	63.0	15.2	7.3	14.5	165

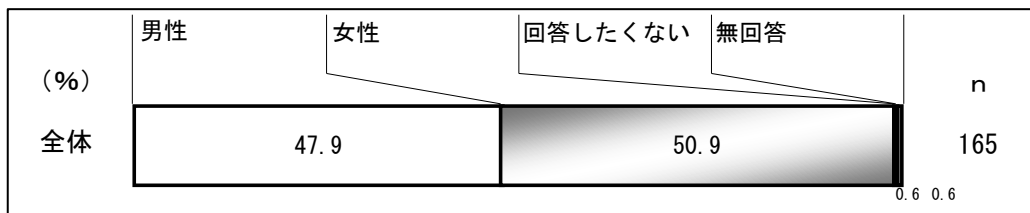
2 性別・年齢、障がいなどの状況、ご家族について

(1) 性別、年齢について

問2 あなたの性別、年齢についてお答えください。

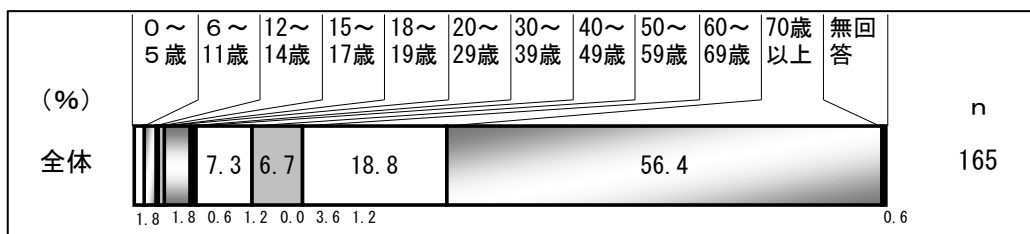
① 性別

性別は、「女性」が50.9%、「男性」が47.9%、「回答したくない」が0.6%となっている。



② 年齢

年齢は、「70歳以上」(56.4%)が最も多く、次いで、「60～69歳」(18.8%)、「40～49歳」(7.3%)、「50～59歳」(6.7%)、「20～29歳」(3.6%)、「0～5歳」・「6～11歳」(同率1.8%)、「15～17歳」・「30～39歳」(同率1.2%)、「12～14歳」(0.6%)となっている。

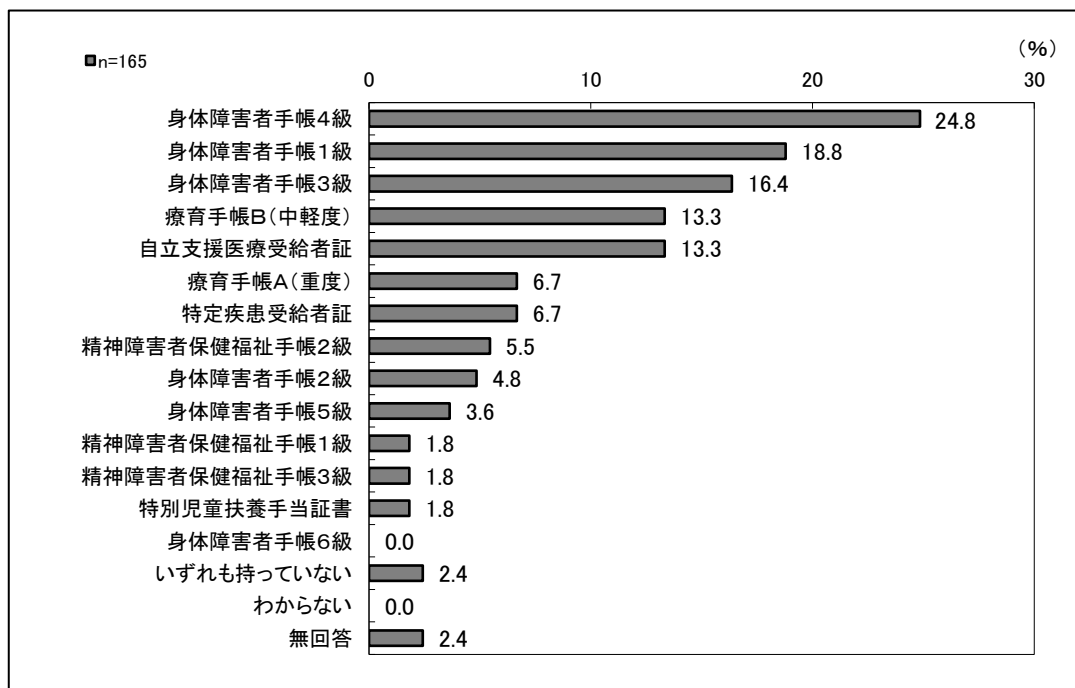


(2) 手帳の種類

問3 あなたがお持ちの手帳や受給者証等は以下のどれですか。【複数回答】

手帳の種類については「身体障害者手帳4級」(24.8%)が第1位、次いで、「身体障害者手帳1級」(18.8%)、「身体障害者手帳3級」(16.4%)、「療育手帳B(中軽度)」・「自立支援医療受給者証」(同率13.3%)、「療育手帳A(重度)」・「特定疾患受給者証」(同率6.7%)、「精神障害者保健福祉手帳2級」(5.5%)、「身体障害者手帳2級」(4.8%)、「身体障害者手帳5級」(3.6%)、「精神障害者保健福祉手帳1級」・「精神障害者保健福祉手帳3級」・「特別児童扶養手当証書」(同率1.8%)の順となっている。なお、「いずれも持っていない」は2.4%となっている。

図表 手帳の種類 (全体/複数回答)



なお、特定疾患受給者の疾患名は以下のとおりとなっている。

パーキンソン病、広範脊柱管狭窄症、橋本病、シェーグレン症候群、膠原病、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、高次脳機能障害、双極性障害(うつ病)、直腸機能障害、自己免疫性肝炎 など

※ 自立支援医療受給者 13.3% (22名) 中、対象医療の選択は精神通院医療 12名となっている。

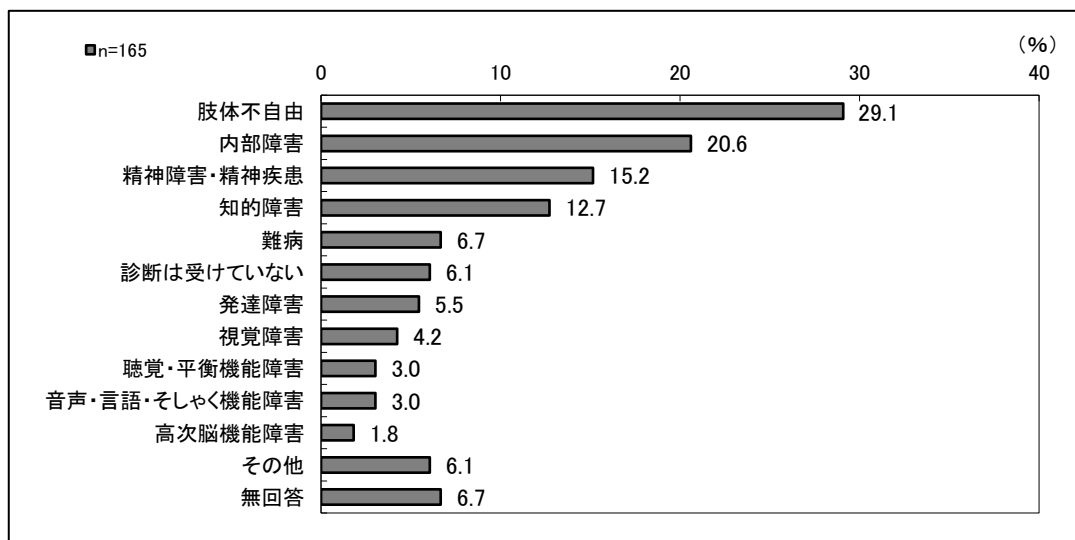
(3) 障がい等の種類

問4 あなたの障がい等の種類についてお答えください。【複数回答】

- 「肢体不自由」が第1位、次いで「内部障害」、「精神障害・精神疾患」の順。

障害等の種類については、「肢体不自由」(29.1%)が第1位、次いで、「内部障害」(20.6%)、「精神障害・精神疾患」(15.2%)、「知的障害」(12.7%)、「難病」(6.7%)、「診断は受けていない」(6.1%)、「発達障害」(5.5%)、「視覚障害」(4.2%)、「聴覚・平衡機能障害」・「音声・言語・そしゃく機能障害」(同率 3.0%)、「高次脳機能障害」(1.8%)などの順となっている。

図表 障害等の種類（全体／複数回答）



(4) 感じている不安

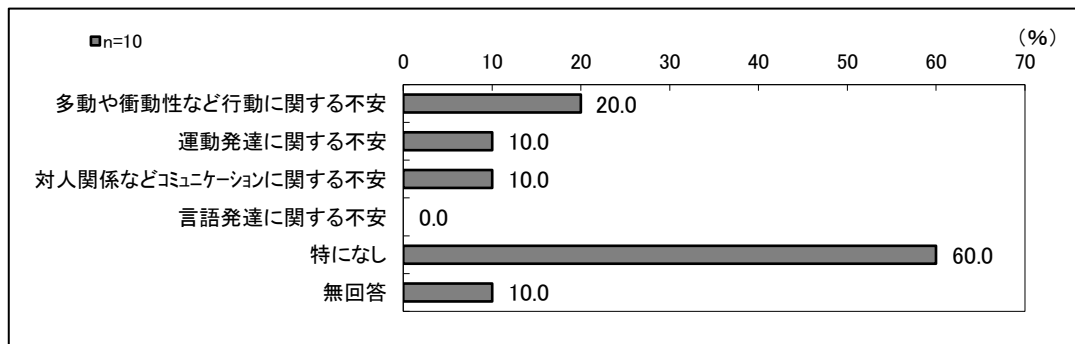
【問4-1は、問4で「1. 診断は受けていない」に○をつけた方にうかがいます】
問4-1 あなたが感じている不安はどのようなことですか。【複数回答】



- 「多動や衝動性など行動に関する不安」が2割。

感じている不安についてたずねたところ、具体的には、「多動や衝動性など行動に関する不安」(20.0%)が第1位、次いで、「運動発達に関する不安」・「対人関係などコミュニケーションに関する不安」(同率10.0%)の順となっている。なお、「特になし」は60.0%となっている。

図表 感じている不安 (全体/複数回答)



(5) 現在一緒に暮らしている人

問5 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。【複数回答】

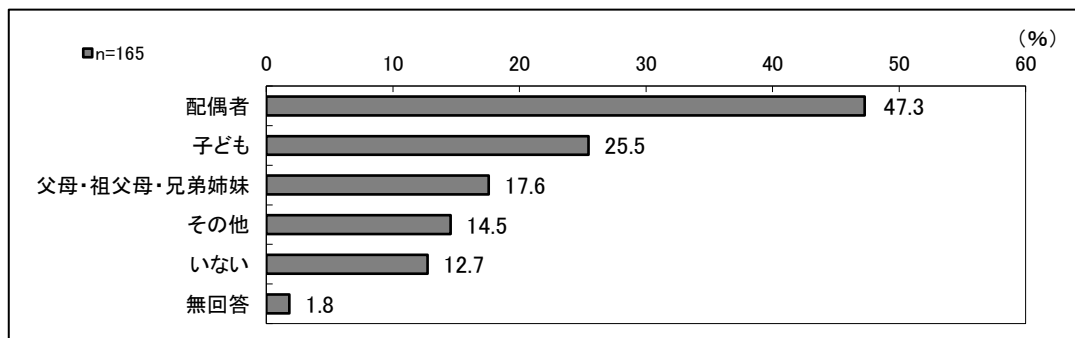
- 「配偶者」が他を引き離して第1位。

現在一緒に暮らしている人についてたずねたところ、「配偶者」(47.3%)が第1位、次いで、「子ども」(25.5%)、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(17.6%)などの順となっている。なお、「いない」は12.7%となっている。

年齢別でみると、20-49歳以下の年齢層では「父母・祖父母・兄弟姉妹」、50-69歳以上の年齢層では「配偶者」が第1位となっている。

障害種別にみると、身体では「配偶者」、知的では「父母・祖父母・兄弟姉妹」、精神では「父母・祖父母・兄弟姉妹」・「配偶者」(同率)が第1位となっている。

図表 現在一緒に暮らしている人（全体／複数回答）



図表 現在一緒に暮らしている人（全体、年齢、障害種別／複数回答）

(単位：人、%)

	合計	問5 現在一緒に暮らしている人						
		父母・祖父母・兄弟姉妹	配偶者	子ども	その他	いない	無回答	
全体	165	17.6	47.3	25.5	14.5	12.7	1.8	
年齢	0～19歳	9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～49歳	20	30.0	20.0	15.0	50.0	0.0	5.0
	50～69歳	42	23.8	45.2	26.2	19.0	16.7	2.4
	70歳以上	93	3.2	59.1	30.1	6.5	15.1	1.1
障害種別	身体	112	8.0	55.4	30.4	12.5	13.4	2.7
	知的	33	42.4	18.2	9.1	33.3	3.0	3.0
	精神	15	26.7	26.7	0.0	20.0	20.0	6.7

(6) 日常生活について

問6 あなたは日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

- 介助の必要性が高い項目は、「外出」、「食事の支度」、「洗濯・掃除」。

日常生活については、以下のとおりとなっている。

図表 日常生活について（全体）

(%)	全部介助が必要	一部介助が必要	ひとりでできる	無回答	n
食事	6.1	3.0	86.1	4.8	165
トイレ	6.7	4.8	83.0	5.5	165
入浴	9.7	12.1	73.3	4.8	165
衣服の着脱	5.5	8.5	80.6	5.5	165
身だしなみ	6.7	9.7	77.0	6.7	165
家の中の移動	5.5	2.4	84.2	7.9	165
外出	13.3	17.0	63.0	6.7	165
家族以外の人との意思疎通	14.5	4.2	70.9	10.3	165
お金の管理	15.8	9.7	68.5	6.1	165
薬の管理	15.8	6.7	70.9	6.7	165
食事の支度	24.2	10.3	55.2	10.3	165
洗濯・掃除	18.8	12.1	59.4	9.7	165

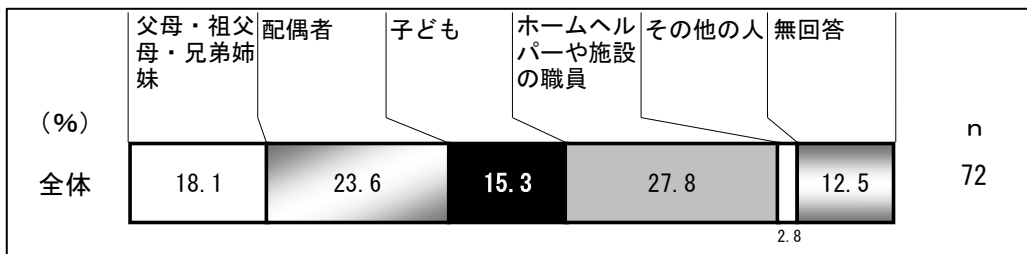
(7) 主な介助者

【問 6-1 は、問 6 で 1 つでも「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます】
 問 6-1 あなたを主に介助してくれる方は誰ですか。

- 「ホームヘルパーや施設の職員」が3割弱。

主な介助者についてたずねたところ、「ホームヘルパーや施設の職員」(27.8%)が最も多く、次いで、「配偶者」(23.6%)、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(18.1%)、「子ども」(15.3%)、「その他の人」(2.8%)となっている。

図表 主な介助者（全体）



(8) 主な介助者について

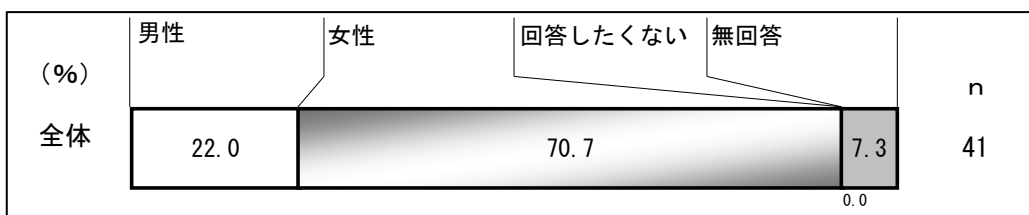
【問 6-2 は、問 6-1 で「1」～「3」に○をつけた方にうかがいます】
 問 6-2 あなたを主に介助してくれる方の年齢、性別、健康状態をお答えください。

- 主な介助者の性別は「女性」が約7割。
- 主な介助者の年齢は「80歳以上」が2割台半ば。
- 主な介助者の健康状態は「ふつう」が5割弱。

① 主な介助者の性別

主な介助者の性別については、「女性」が70.7%、「男性」が22.0%となっている。

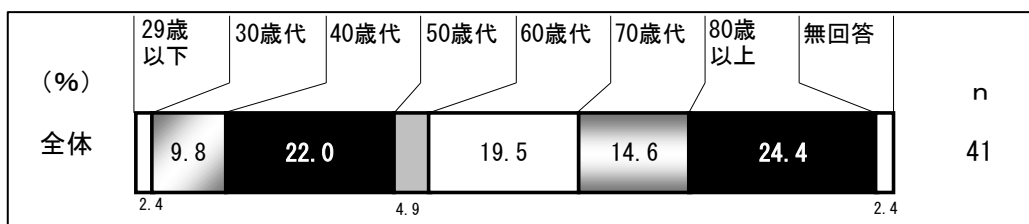
図表 主に介助の性別（全体）



② 主な介助者の年齢

主な介助者の年齢については、「80歳以上」(24.4%)が最も多く、次いで、「40歳代」(22.0%)、「60歳代」(19.5%)、「70歳代」(14.6%)、「30歳代」(9.8%)、「50歳代」(4.9%)、「29歳以下」(2.4%)となっている。

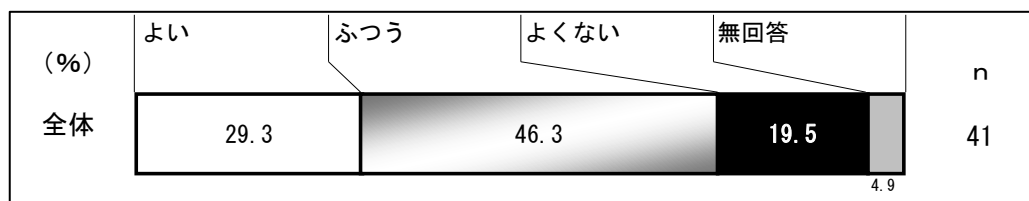
図表 主に介助の年齢（全体）



③ 主な介助者の健康状態

主な介助者の健康状態については、「ふつう」が46.3%、「よい」が29.3%、「よくない」が19.5%となっている。

図表 主に介助者の健康状態（全体）



3 住まいや暮らしについて

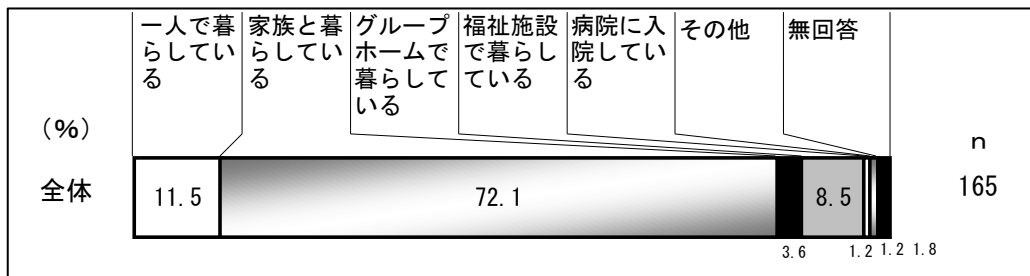
(1) 現在の暮らし方

問7 あなたは現在どのように暮らしていますか。

- 「家族と暮らしている」が7割強。

現在の暮らし方については、「家族と暮らしている」(72.1%)が最も多く、次いで、「一人で暮らしている」(11.5%)、「福祉施設で暮らしている」(8.5%)、「グループホームで暮らしている」(3.6%)、「病院に入院している」(1.2%)などとなっている。

図表 現在の暮らし方（全体）



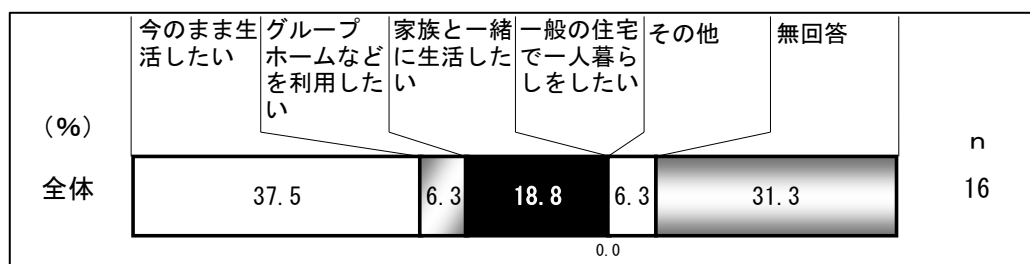
(2) 将来地域で暮らしたいか

【問7-1、問7-2は、問7で「4」または「5」に○をつけた方にうかがいます】
問7-1 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。

- 「今のまま生活したい」が4割弱。

将来地域で暮らしたいかたずねたところ、「今のまま生活したい」(37.5%)が最も多く、次いで、「家族と一緒に生活したい」(18.8%)、「グループホームなどを利用したい」(6.3%)などとなっている。

図表 将来地域で暮らしたいか（全体）



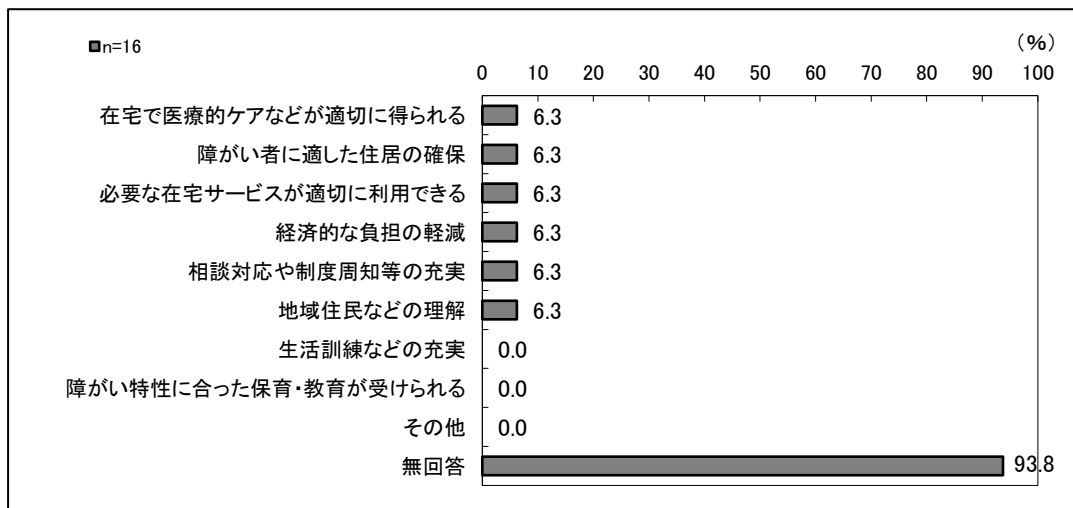
(3) 地域で生活するためにあるとよいと思う支援

問 7-2 あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
【複数回答】

- 「在宅で医療的ケアなどが適切に得られる」・「障がい者に適した住居の確保」・「必要な在宅サービスが適切に利用できる」・「経済的な負担の軽減」・「相談対応や制度周知等の充実」・「地域住民などの理解」が同率。

地域で生活するためにあればよい支援については、「在宅で医療的ケアなどが適切に得られる」・「障がい者に適した住居の確保」・「必要な在宅サービスが適切に利用できる」・「経済的な負担の軽減」・「相談対応や制度周知等の充実」・「地域住民などの理解」が同率の6.3%となっている。

図表 地域で生活するためにあるとよいと思う支援（全体／複数回答）



4 日中活動や就労について

(1) 外出の頻度

問8 あなたは1週間にどの程度外出しますか。

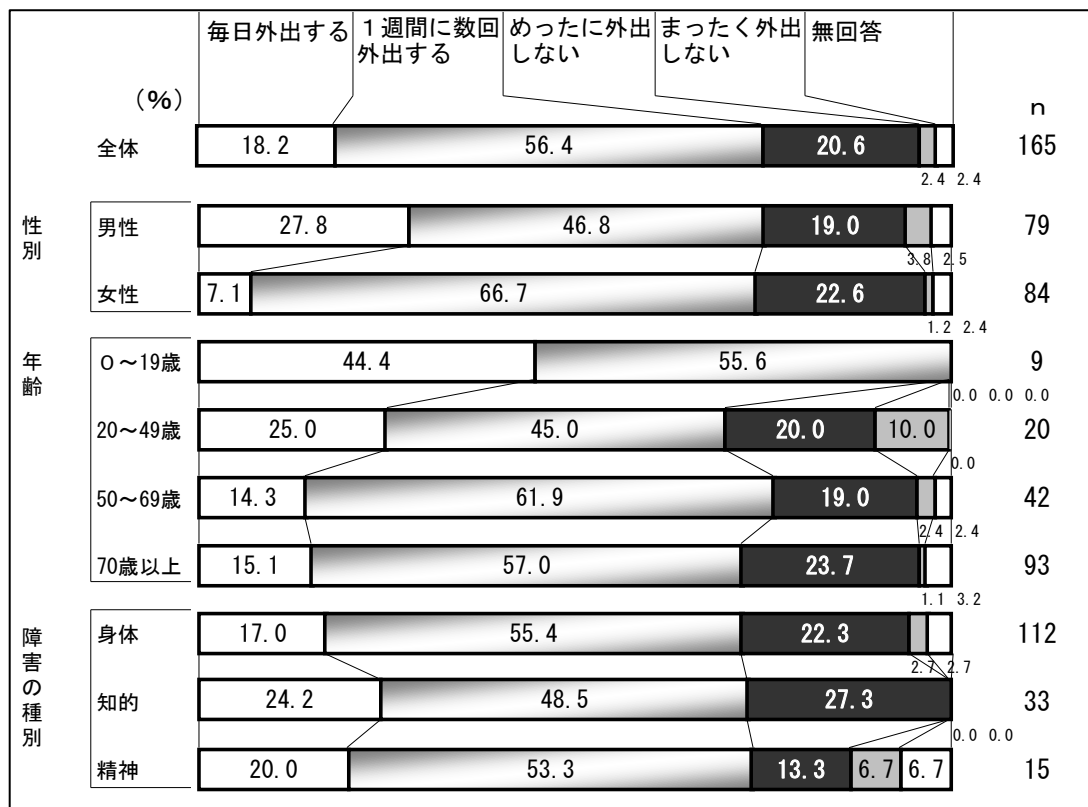
- 「1週間に数回外出する」が6割弱。

外出の頻度については、「1週間に数回外出する」(56.4%)が最も多く、次いで、「めったに外出しない」(20.6%)、「毎日外出する」(18.2%)、「まったく外出しない」(2.4%)となっている。

性別で見ると、総じて、男性より女性の外出頻度が低い。

年齢別で見ると、「毎日外出する」の割合は、50-69歳、70歳以上では1割台半ばにとどまる。

図表 外出の頻度（全体、性別、年齢、障害種別）



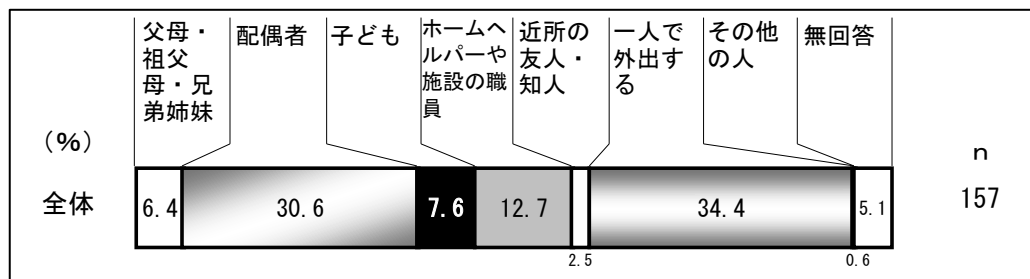
(2) 外出する際の主な同伴者

【問 8-1 から問 8-3 は、問 8 で「1」～「3」に○をつけた方にうかがいます】
問 8-1 あなたは外出する際、主に誰と一緒に出かけますか。

- 「一人で外出する」が3割台半ば。

外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」(34.4%) が最も多く、次いで、「配偶者」(30.6%)、「ホームヘルパーや施設の職員」(12.7%)、「子ども」(7.6%)、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(6.4%)、「近所の友人・知人」(2.5%)、「その他の人」(0.6%) となっている。

図表 外出する際の主な同伴者（全体）



(3) 外出の目的

問 8-2 あなたはどのような目的で外出しますか。【複数回答】

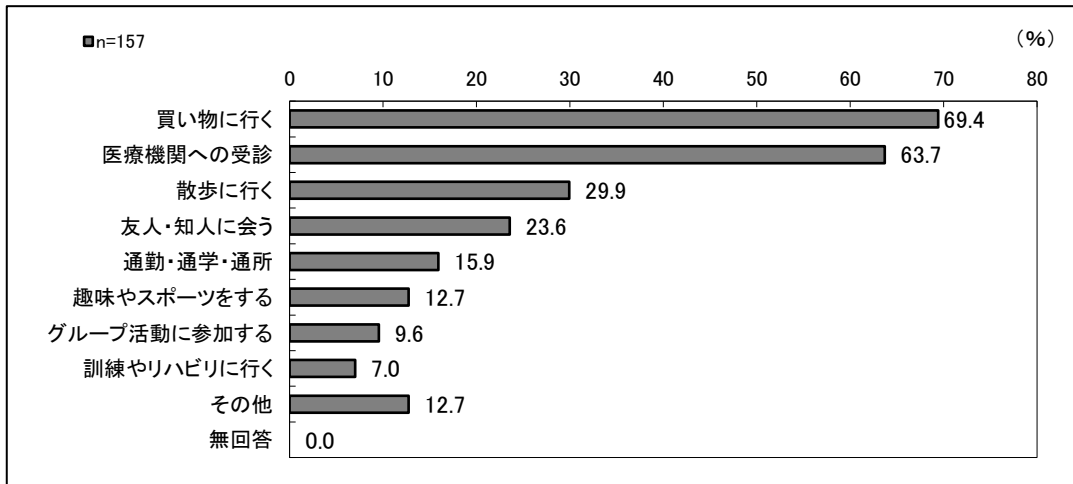
- 「買い物に行く」が第1位、次いで「医療機関への受診」、「散歩に行く」の順。

外出の目的については、「買い物に行く」(69.4%)が第1位、次いで、「医療機関への受診」(63.7%)、「散歩に行く」(29.9%)、「友人・知人に会う」(23.6%)、「通勤・通学・通所」(15.9%)、「趣味やスポーツをする」(12.7%)、「グループ活動に参加する」(9.6%)、「訓練やリハビリに行く」(7.0%)などの順となっている。

年齢別でみても、すべての年齢層で「買い物に行く」が第1位となっているが、0～19歳では、「通勤・通学・通所」及び「散歩に行く」も同率で第1位となっている。

障害種別でみると、身体では「医療機関への受診」、知的では「医療機関への受診」・「買い物に行く」、精神では「買い物に行く」が第1位となっている。

図表 外出の目的（全体／複数回答）



図表 外出の目的（全体、年齢、障害種別／複数回答）

(単位：人、%)

	合計	問8-2 外出の目的										
		通勤・通学・通所	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答	
全体	157	15.9	7.0	63.7	69.4	23.6	12.7	9.6	29.9	12.7	0.0	
年齢	0～19歳	9	55.6	11.1	22.2	55.6	33.3	11.1	0.0	55.6	11.1	0.0
	20～49歳	18	33.3	0.0	50.0	61.1	5.6	5.6	5.6	27.8	27.8	0.0
	50～69歳	40	22.5	10.0	72.5	77.5	25.0	17.5	5.0	20.0	5.0	0.0
	70歳以上	89	4.5	6.7	67.4	69.7	25.8	12.4	13.5	32.6	13.5	0.0
障害種別	身体	106	10.4	8.5	67.9	66.0	23.6	9.4	9.4	26.4	15.1	0.0
	知的	33	33.3	6.1	57.6	57.6	12.1	12.1	9.1	27.3	15.2	0.0
	精神	13	15.4	0.0	61.5	76.9	38.5	15.4	30.8	30.8	15.4	0.0

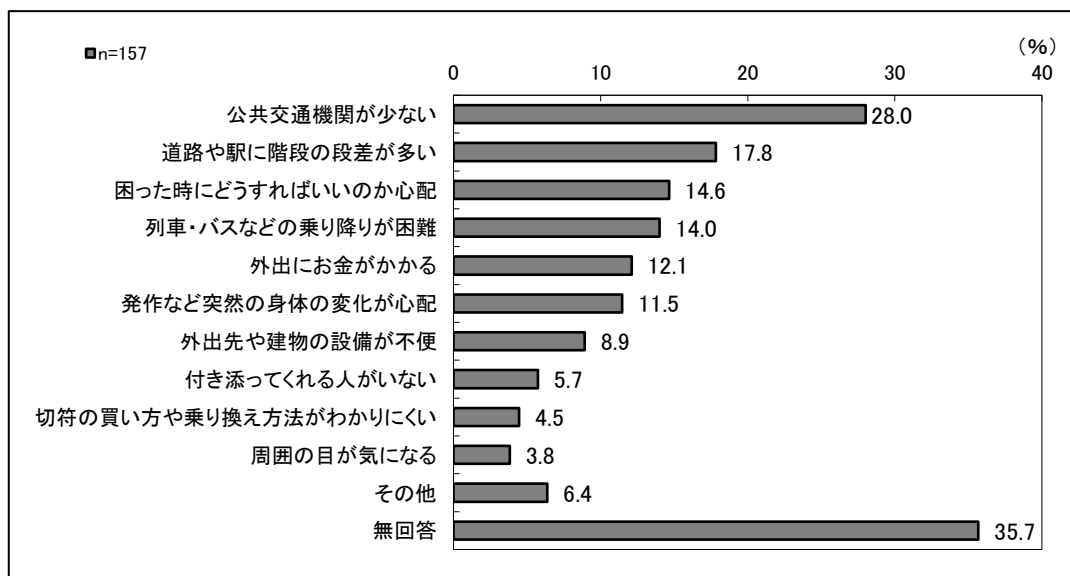
(4) 外出する時に困ること

問 8-3 あなたが外出する時に困ることは何ですか。【複数回答】

- 「公共交通機関が少ない」が第1位、次いで、「道路や駅に階段の段差が多い」、「困った時にどうすればいいのか心配」の順。

外出する時に困ることについては、「公共交通機関が少ない」(28.0%)が第1位、次いで、「道路や駅に階段の段差が多い」(17.8%)、「困った時にどうすればいいのか心配」(14.6%)、「列車・バスなどの乗り降りが困難」(14.0%)、「外出にお金がかかる」(12.1%)、「発作など突然の身体の変化が心配」(11.5%)、「外出先や建物の設備が不便」(8.9%)、「付き添ってくれる人がいない」(5.7%)、「切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい」(4.5%)、「周囲の目が気になる」(3.8%)などの順となっている。

図表 外出する時に困ること (全体/複数回答)



(5) 平日の日中の過ごし方

【問9は、すべての方にうかがいます】

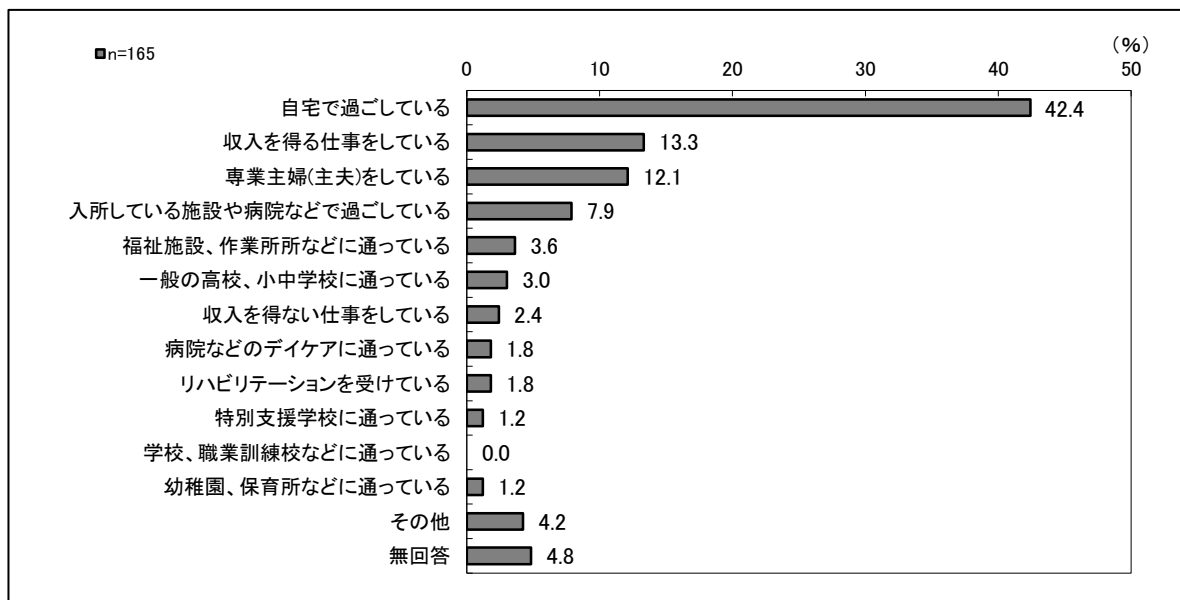
問9 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

- 「自宅で過ごしている」が他を引き離して第1位。

平日の日中の過ごし方については、「自宅で過ごしている」(42.4%)が第1位、次いで、「収入を得る仕事をしている」(13.3%)、「専業主婦(主夫)をしている」(12.1%)、「入所している施設や病院などで過ごしている」(7.9%)、「福祉施設、作業所所などに通っている」(3.6%)、「一般の高校、小中学校に通っている」(3.0%)、「収入を得ない仕事をしている」(2.4%)、「病院などのデイケアに通っている」・「リハビリテーションを受けている」(同率 1.8%)、「特別支援学校に通っている」・「幼稚園、保育所などに通っている」(同率 1.2%)などの順となっている。

年齢別で見ると、0～19歳では「一般の高校、小中学校に通っている」、20-49歳では「収入を得る仕事をしている」・「自宅で過ごしている」・「入所している施設や病院などで過ごしている」、50-69歳、70歳以上では「自宅で過ごしている」が第1位となっており、平日日中の過ごし方は、年齢層によって違いがみられる。

図表 平日の日中の過ごし方(全体、障害種別)



図表 平日の日中の過ごし方（全体、年齢、障害種別）

（単位：人・％）

	合計	問9 平日の日中の過ごし方									
		収入を得る仕事をしている	収入を得ない仕事をしている	専業主婦(主夫)をしている	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院などで過ごしている	学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校に通っている
全体	165	13.3	2.4	12.1	3.6	1.8	1.8	42.4	7.9	0.0	1.2
年齢	0～19歳	9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1
	20～49歳	20	25.0	0.0	5.0	20.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0
	50～69歳	42	28.6	0.0	14.3	4.8	0.0	0.0	33.3	9.5	0.0
	70歳以上	93	5.4	4.3	14.0	0.0	3.2	2.2	54.8	4.3	0.0
障害種別	身体	112	11.6	2.7	13.4	1.8	2.7	2.7	46.4	7.1	0.0
	知的	33	12.1	0.0	0.0	15.2	3.0	3.0	18.2	18.2	0.0
	精神	15	13.3	0.0	6.7	6.7	0.0	6.7	53.3	13.3	0.0

	合計	問9 平日の日中の過ごし方			
		一般の高校、小中学校に通っている	幼稚園、保育所などに通っている	その他	無回答
全体	165	3.0	1.2	4.2	4.8
年齢	0～19歳	9	55.6	22.2	0.0
	20～49歳	20	0.0	0.0	0.0
	50～69歳	42	0.0	0.0	4.8
	70歳以上	93	0.0	0.0	5.4
障害種別	身体	112	0.0	0.0	4.5
	知的	33	12.1	3.0	6.1
	精神	15	0.0	0.0	0.0

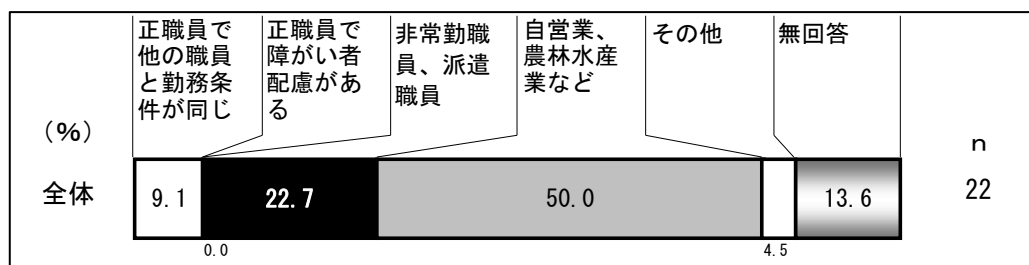
(6) 勤務形態

【問 9-1 は、問 9 で「1」に○をつけた方にかがいます】
問 9-1 あなたはどのような勤務形態で働いていますか。

- 「自営業、農林水産業など」が5割。

勤務形態については、「自営業、農林水産業など」(50.0%)、「非常勤職員、派遣職員」(22.7%)、「正職員で他の職員と勤務条件が同じ」(9.1%)となっている。

図表 勤務形態 (全体)



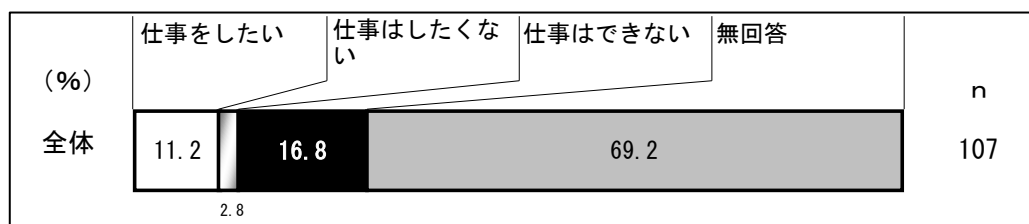
(7) 今後収入を得る仕事をしたいか

【問 10 は、問 9 で「2」～「13」に○をつけた方のうち、18～64歳の方にかがいます】
問 10 あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。

- 「仕事はできない」が2割弱。

今後収入を得る仕事をしたいかたずねたところ、「仕事はできない」が16.8%、「仕事をしたい」が11.2%、「仕事はしたくない」2.8%となっている。

図表 今後収入を得る仕事をしたいか (全体)



(8) 仕事に就くために職業訓練などを受けたいか

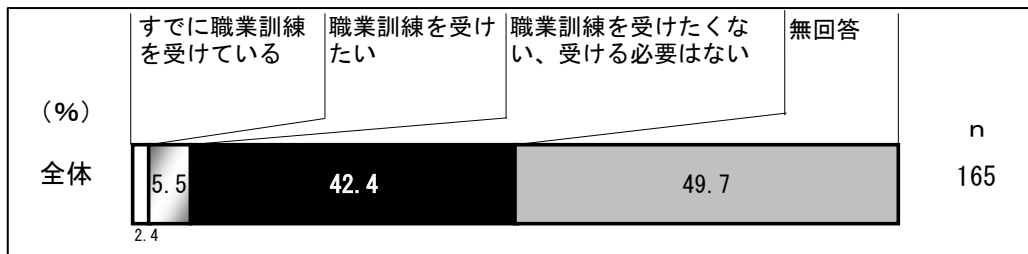
問 11 収入を得られる仕事に就くために、職業訓練などを受けたいと思いますか。



- 「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が4割強。

仕事に就くために職業訓練などを受けたいかたずねたところ、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が42.4%、「職業訓練を受けたい」が5.5%、「すでに職業訓練を受けている」が2.4%となっている。

図表 仕事に就くために職業訓練などを受けたいか（全体）



(9) 障がい者の就労支援として必要なこと

問 12 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
【複数回答】

- 「職場の上司や同僚の障がいへの理解」が第1位、次いで「職場組織全体の障がい者理解」、「通勤手段の確保」の順。

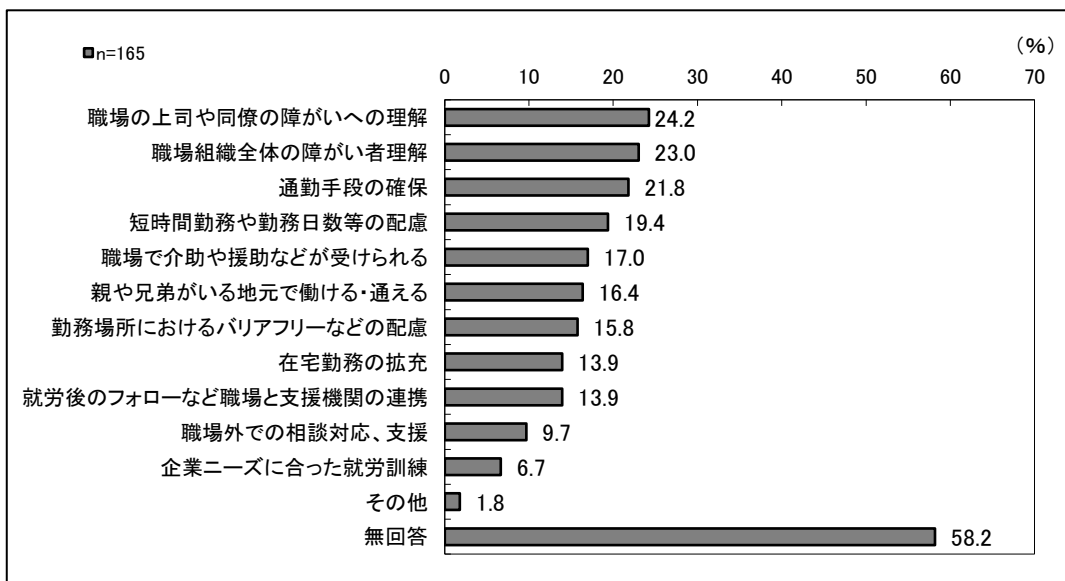
障がい者の就労支援として必要なことについては、「職場の上司や同僚の障がいへの理解」(24.2%)が第1位、次いで、「職場組織全体の障がい者理解」(23.0%)、「通勤手段の確保」(21.8%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(19.4%)、「職場で介助や援助などが受けられる」(17.0%)、「親や兄弟がいる地元で働ける・通える」(16.4%)、「勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮」(15.8%)、「在宅勤務の拡充」・「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(同率13.9%)、「職場外での相談対応、支援」(9.7%)、「企業ニーズに合った就労訓練」(6.7%)などの順となっている。

性別でみると、男性では「通勤手段の確保」、女性では「職場の上司や同僚の障がいへの理解」が第1位となっている。

年齢別でみると、0-19歳では「職場組織全体の障がい者理解」・「職場の上司や同僚の障がいへの理解」(同率)、20-49歳では「職場組織全体の障がい者理解」・「職場の上司や同僚の障がいへの理解」・「親や兄弟がいる地元で働ける・通える」(同率)、50-69歳では「職場の上司や同僚の障がいへの理解」、70歳以上では「通勤手段の確保」が第1位となっており、年齢層により、障がい者支援として必要と考える内容に違いがみられる。

障害種別でみると、すべての層で「職場組織全体の障がい者理解」と「職場の上司や同僚の障がいへの理解」の割合は高いが、精神では「親や兄弟がいる地元で働ける・通える」も同率で第1位となっている。

図表 障がい者の就労支援として必要なこと (全体/複数回答)



図表 障がい者の就労支援として必要なこと（全体、性別、年齢、障害種別／複数回答）

（単位：人、％）

	合計	問12 障がい者の就労支援として必要なこと										
		通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリーなどの配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場組織全体の障がい者理解	職場の上司や同僚の障がいへの理解	職場で介助や援助などが受けられる	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	職場外での相談対応、支援	
全体	165	21.8	15.8	19.4	13.9	23.0	24.2	17.0	13.9	6.7	9.7	
性別	男性	79	29.1	17.7	24.1	19.0	22.8	26.6	21.5	16.5	8.9	11.4
	女性	84	13.1	13.1	13.1	9.5	21.4	20.2	10.7	9.5	4.8	6.0
年齢	0～19歳	9	44.4	0.0	22.2	0.0	66.7	66.7	33.3	33.3	11.1	22.2
	20～49歳	20	20.0	10.0	20.0	10.0	30.0	30.0	20.0	25.0	0.0	5.0
	50～69歳	42	31.0	33.3	33.3	21.4	33.3	38.1	26.2	21.4	11.9	19.0
	70歳以上	93	15.1	10.8	11.8	12.9	11.8	11.8	9.7	5.4	5.4	4.3
障害種別	身体	112	13.4	15.2	13.4	13.4	15.2	16.1	11.6	7.1	4.5	6.3
	知的	33	36.4	18.2	27.3	15.2	39.4	39.4	33.3	27.3	12.1	24.2
	精神	15	13.3	6.7	13.3	6.7	20.0	20.0	13.3	6.7	0.0	13.3

	合計	問12			
		親や兄弟がいる地元で働ける・通える	その他	無回答	
全体	165	16.4	1.8	58.2	
性別	男性	79	22.8	2.5	48.1
	女性	84	9.5	1.2	69.0
年齢	0～19歳	9	33.3	0.0	22.2
	20～49歳	20	30.0	0.0	35.0
	50～69歳	42	26.2	4.8	40.5
	70歳以上	93	6.5	1.1	75.3
障害種別	身体	112	10.7	2.7	67.9
	知的	33	30.3	0.0	30.3
	精神	15	20.0	0.0	66.7

5 障がい福祉サービスなどの利用について

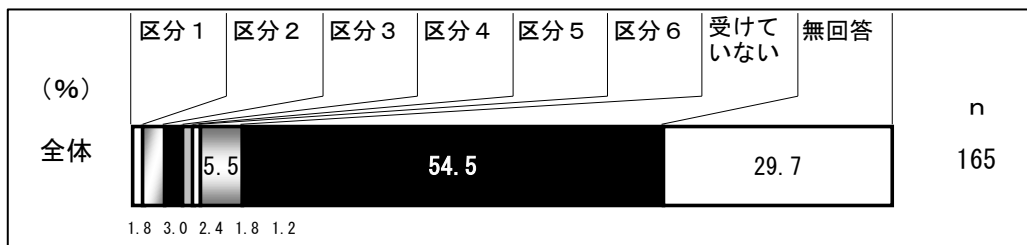
(1) 障害支援区分

問 13 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

- 「受けていない」が5割台半ば。

障害支援区分については、「受けていない」(54.5%)が最も多く、次いで、「区分6」(5.5%)、「区分2」(3.0%)、「区分3」(2.4%)、「区分1」・「区分4」(同率1.8%)、「区分5」(1.2%)となっている。

図表 障害支援区分（全体）



(2) サービスの利用について

問 14 あなたは次のサービスを今後利用したいと考えますか。(①から⑧について、「現在」と「今後」の両方それぞれ、1つに○)

- 「利用している」の割合が高いのは、「相談支援」で1割台半ば。
- 「利用したい」の割合が高いのは、「相談支援」で3割強、「居宅介護」は2割台半ば。

サービスの利用意向については、以下のとおりとなっている。

(1) 現在の利用状況

図表 サービスの利用状況について ①～⑧ (全体)

(%)	利用している	利用していない	無回答	n
居宅介護	6.1	54.5	39.4	165
重度訪問介護	0.0	58.2	41.8	165
同行援護	1.2	55.8	43.0	165
行動援護	1.8	52.7	45.5	165
重度障害者等包括支援	0.0	55.8	44.2	165
生活介護	6.7	56.4	37.0	165
療養介護	3.6	58.8	37.6	165
短期入所	1.8	57.0	41.2	165

図表 サービスの利用状況について ⑨～⑯（全体）

(%)	利用している	利用していない	無回答	n
自立訓練	53.9	41.8	4.2	165
就労移行支援	55.8	43.6	0.6	165
就労継続支援（A型）	52.7	45.5	1.8	165
就労継続支援（B型）	52.7	45.5	1.8	165
就労定着支援	52.7	47.3	0.0	165
共同生活援助	53.9	43.0	3.0	165
施設入所支援	50.9	44.2	4.8	165
自立生活援助	53.3	44.2	2.4	165

図表 サービスの利用状況について ⑰～㉓（全体）

(%)	利用している	利用していない	無回答	n
相談支援	15.2	43.6	41.2	165
児童発達支援	30.9	67.9	1.2	165
居宅訪問型児童発達支援	30.3	69.1	0.6	165
放課後等デイサービス	29.7	69.7	0.6	165
保育所等訪問支援	29.1	70.3	0.6	165
医療型児童発達支援	29.7	69.7	0.6	165

図表 サービスの利用状況について ㉔～㉘（全体）

(%)	利用している	利用していない	無回答	n
意思疎通支援	49.1	50.9	0.0	165
日常生活用具・補装具給付	6.1	46.7	47.3	165
移動支援	49.7	49.1	1.2	165
日中一時支援	49.7	49.7	0.6	165
地域活動支援センター	46.7	52.1	1.2	165
訪問入浴サービス	50.3	47.3	2.4	165

(2) 今後の利用意向

図表 サービスの利用意向について ①～⑧ (全体)

(%)	利用したい	利用しない	無回答	n
居宅介護	24.2	34.5	41.2	165
重度訪問介護	15.8	38.8	45.5	165
同行援護	15.2	38.2	46.7	165
行動援護	16.4	34.5	49.1	165
重度障害者等包括支援	13.3	37.0	49.7	165
生活介護	20.6	35.8	43.6	165
療養介護	16.4	37.0	46.7	165
短期入所	20.0	35.8	44.2	165

図表 サービスの利用意向について ⑨～⑯ (全体)

(%)	利用したい	利用しない	無回答	n
自立訓練	17.6	36.4	46.1	165
就労移行支援	6.1	46.1	47.9	165
就労継続支援 (A型)	7.9	44.2	47.9	165
就労継続支援 (B型)	7.3	43.6	49.1	165
就労定着支援	6.1	43.6	50.3	165
共同生活援助	17.6	34.5	47.9	165
施設入所支援	15.8	37.6	46.7	165
自立生活援助	14.5	38.2	47.3	165

図表 サービスの利用意向について ⑰～⑳ (全体)

(%)	利用したい	利用しない	無回答	n
相談支援	32.1	21.8	46.1	165
児童発達支援	5.5	24.8	69.7	165
居宅訪問型児童発達支援	27.3	70.9		165
放課後等デイサービス	1.8	24.2	71.5	165
保育所等訪問支援	4.2	24.8	72.7	165
医療型児童発達支援	2.4	24.8	71.5	165
	3.6			

図表 サービスの利用意向について ㉓～㉔ (全体)

(%)	利用したい	利用しない	無回答	n
意思疎通支援	9.7	35.8	54.5	165
日常生活用具・補装具給付	20.6	27.3	52.1	165
移動支援	18.8	27.9	53.3	165
日中一時支援	13.9	32.1	53.9	165
地域活動支援センター	13.3	30.9	55.8	165
訪問入浴サービス	13.9	32.7	53.3	165

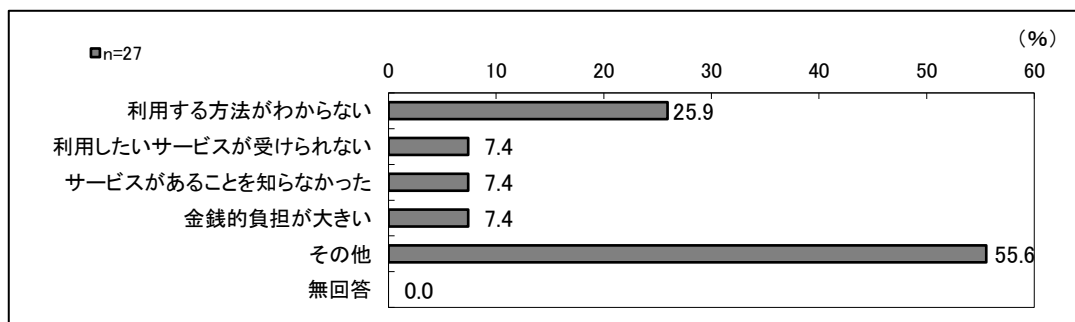
(3) 障がい福祉サービスを利用しない理由

【問 15 は、問 14 のサービスを利用していない方、利用希望がない方にうかがいます】
問 15 障がい福祉サービスを利用しない理由は何ですか。【複数回答】

- 「利用する方法がわからない」が他を引き離して第 1 位。

障がい福祉サービスを利用しない理由については、「利用する方法がわからない」(25.9%)が第 1 位、次いで、「利用したいサービスが受けられない」・「サービスがあることを知らなかった」・「金銭的負担が大きい」(同率 7.4%)などの順となっている。

図表 障がい福祉サービスを利用しない理由（全体／複数回答）



○その他の主な記述内容

- ・ 支援を受けなくても生活ができるから
- ・ 現時点ではその必要が無いから
- ・ 現段階で必要なサービスは無い
- ・ 自分で出来るから
- ・ まだ歩けるから
- ・ 今のところ必要がない
- ・ 自分で出来るので
- ・ 生活に不便が無いから

6 保健・医療・福祉サービスについて

(1) 定期的に通院している医療機関の有無

問 16 定期的に通院している医療機関（かかりつけ医）はありますか。

- 「ある」が約8割。

定期的に通院している医療機関の有無については、「ある」が80.6%、「ない」が13.9%となっている。

年齢別でみると、「ある」の割合は、70歳以上では9割弱となっており、他の年齢層より高くなっている。

障害種別でみると、「ある」の割合は、身体では8割台半ばとなっており、知的や精神より高くなっている。

図表 定期的に通院している医療機関の有無（全体、年齢、障害種別）

	(%)	ある	ない	無回答	n
全体		80.6	13.9	5.5	165
年齢	0～19歳	66.7	22.2	11.1	9
	20～49歳	60.0	35.0	5.0	20
	50～69歳	78.6	14.3	7.1	42
	70歳以上	88.2	7.5	4.3	93
障害種別	身体	85.7	8.9	5.4	112
	知的	66.7	27.3	6.1	33
	精神	60.0	33.3	6.7	15

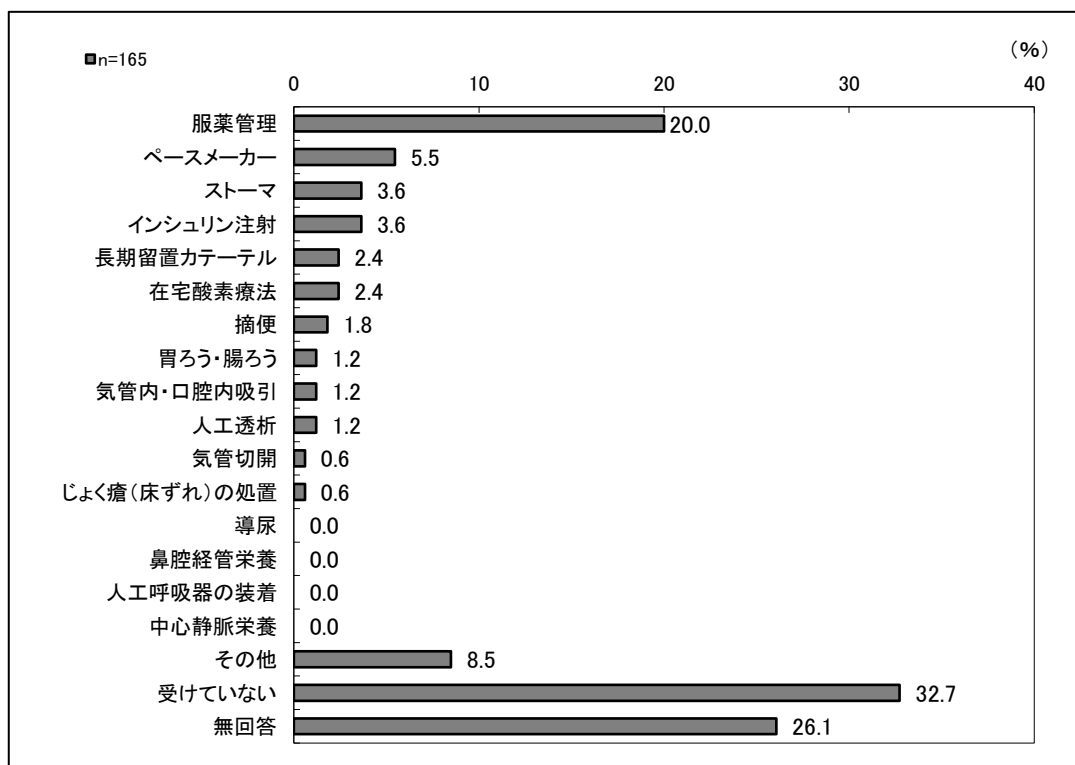
(2) 現在受けている医療的ケア

問 17 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。【複数回答】

- 具体的には、「服薬管理」が他を引き離して第1位。

現在受けている医療的ケアについては、具体的には、「服薬管理」(20.0%)が第1位、次いで、「ペースメーカー」(5.5%)、「ストーマ」・「インシュリン注射」(同率3.6%)、「長期留置カテーテル」・「在宅酸素療法」(同率2.4%)、「摘便」(1.8%)、「胃ろう・腸ろう」・「気管内・口腔内吸引」・「人工透析」(同率1.2%)、「気管切開」・「じょく瘡(床ずれ)の処置」(同率0.6%)などの順となっている。なお、「受けていない」(32.7%)と無回答(26.1%)を除く4割強が何らかの医療的ケアを受けていることがうかがえる。

図表 現在受けている医療的ケア（全体／複数回答）



(3) 現在受けている町の福祉サービス

問 18 あなたが現在受けている清里町の福祉サービスをお答えください。【複数回答】

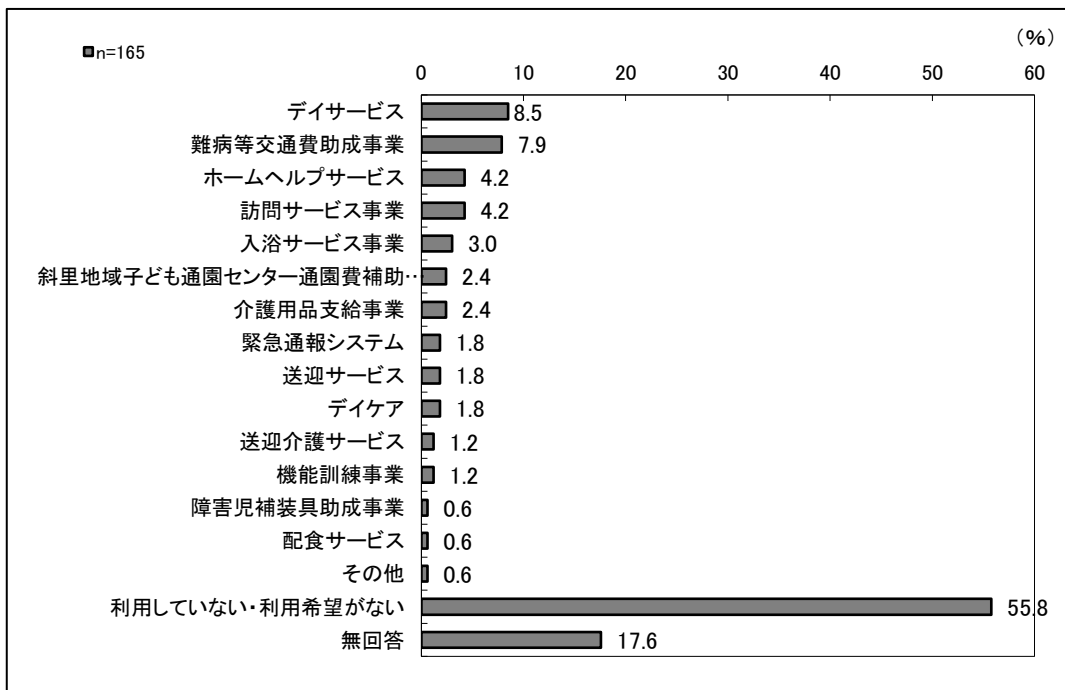
- 具体的には、「デイサービス」が第1位、次いで「難病等交通費助成事業」、「ホームヘルプサービス」・「訪問サービス事業」(同率)の順。

現在受けている町の福祉サービスについては、具体的には、「デイサービス」(8.5%)が第1位、次いで、「難病等交通費助成事業」(7.9%)、「ホームヘルプサービス」・「訪問サービス事業」(同率 4.2%)、「入浴サービス事業」(3.0%)、「斜里地域子ども通園センター通園費補助事業」・「介護用品支給事業」(同率 2.4%)、「緊急通報システム」・「送迎サービス」・「デイケア」(同率 1.8%)、「送迎介護サービス」・「機能訓練事業」(同率 1.2%)、「障害児補装具助成事業」・「配食サービス」(同率 0.6%)などの順となっている。なお、「利用していない・利用希望がない」(55.8%)と「無回答」(17.6%)を除く3割弱が何らかの福祉サービスを受けていることがうかがえる。

年齢別でみると、0-19歳では「斜里地域子ども通園センター通園費補助事業」、20-49歳、50-69歳では「難病等交通費助成事業」、70歳以上では「デイサービス」が第1位となっている。

障害種別でみると、身体では「デイサービス」、知的では「訪問サービス事業」、精神では「難病等交通費助成事業」・「ホームヘルプサービス」・「訪問サービス事業」が第1位となっており、受けている福祉サービスに違いがみられる。

図表 現在受けている町の福祉サービス (全体/複数回答)



図表 現在受けている町の福祉サービス（全体、年齢、障害種別／複数回答）

（単位：人、％）

	合計	問18 現在受けている町の福祉サービス									
		難病等交通費助成事業	緊急通報システム	送迎サービス	送迎介護サービス	障害児補装具助成事業	斜里地域子ども通園センター通園費補助事業	ホームヘルプサービス	デイサービス	デイケア	配食サービス
全体	165	7.9	1.8	1.8	1.2	0.6	2.4	4.2	8.5	1.8	0.6
年齢	0～19歳	9	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0
	20～49歳	20	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～69歳	42	9.5	2.4	2.4	2.4	0.0	0.0	7.1	7.1	2.4
	70歳以上	93	7.5	2.2	2.2	1.1	0.0	1.1	4.3	11.8	2.2
障害種別	身体	112	6.3	0.9	1.8	0.9	0.9	1.8	2.7	10.7	1.8
	知的	33	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0
	精神	15	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0

	合計	問18 現在受けている町の福祉サービス							無回答
		介護用品支給事業	機能訓練事業	入浴サービス事業	訪問サービス事業	その他	利用していない・利用希望がない		
全体	165	2.4	1.2	3.0	4.2	0.6	55.8	17.6	
年齢	0～19歳	9	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	66.7	0.0
	20～49歳	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	15.0
	50～69歳	42	4.8	2.4	4.8	7.1	2.4	59.5	16.7
	70歳以上	93	2.2	1.1	3.2	3.2	0.0	47.3	20.4
障害種別	身体	112	2.7	0.9	3.6	3.6	0.9	51.8	21.4
	知的	33	3.0	0.0	6.1	9.1	0.0	75.8	12.1
	精神	15	0.0	0.0	6.7	13.3	0.0	40.0	20.0

（４） サービスを利用しない理由

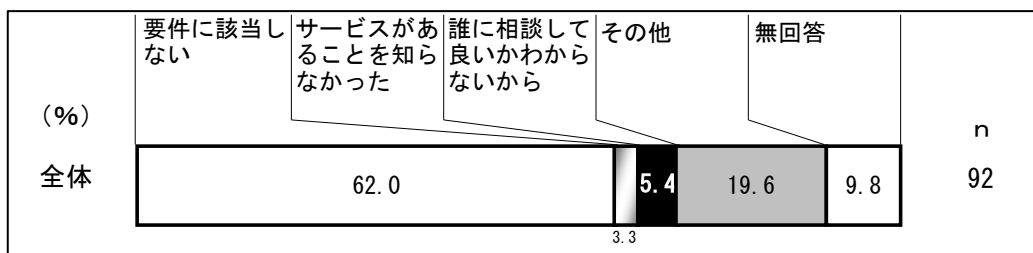
【問18-1は、問18で「16」に○をつけた方にうかがいます】

問18-1 サービスを利用していない方、利用希望が無い方にお聞きします。サービスを利用しない理由は何ですか。

- 「要件に該当しない」が6割強。

サービスを利用しない理由については、「要件に該当しない」（62.0％）が最も多く、次いで、「誰に相談して良いかわからないから」（5.4％）、「サービスがあることを知らなかった」（3.3％）などとなっている。

図表 サービスを利用しない理由（全体）



(5) あると良いと思う福祉サービス

問 18-2 清里町にあると良いと思う問 18 のような障がい者等を対象にした福祉サービスがありましたら記載してください。※自由記述

あると良いと思う福祉サービスについては、以下のとおりとなっている。

障害種別	あると良いと思う福祉サービス
身体	<ul style="list-style-type: none">・ 排雪サービス・ 眼科・ 障がいを持った子ども（発達障がいなど）を持つ親が安心して通える幼児施設（小学校前遊べる所、リハビリできる所）、小学校、中学校、高校・ 送迎サービス、デイサービス、入浴サービス、難病等交通費助成事業・ 送迎バスサービス
知的	<ul style="list-style-type: none">・ 特別支援学校も近くにないので、小学校前までは斜里通園センターで療育を受けられたが、卒業すると療育を受ける場所がない。特児手当などの診断書を受けるときも病院が近くにないので、まず受診するのも数ヵ月かかるので大変・ 障がい児の放課後等デイサービス（小1～高3）・ 小学生でも受けられる子ども通園センターの様なサービスがあるとありがたい。今受けられるサービスは未就学児までなので

7 相談相手について

(1) 悩みや困ったことの相談先

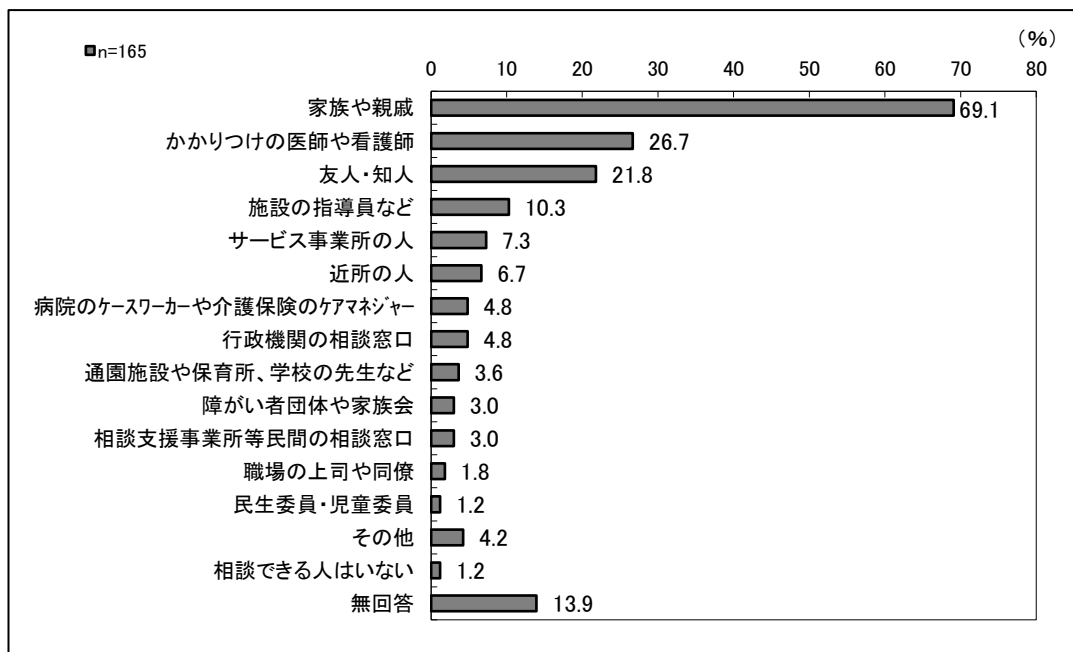
問 19 あなたは普段、悩みや困ったことを誰に相談しますか。【複数回答】

- 「家族や親戚」が他を引き離して第1位。

悩みや困ったことの相談先については、「家族や親戚」(69.1%)が第1位、次いで、「かかりつけの医師や看護師」(26.7%)、「友人・知人」(21.8%)、「施設の指導員など」(10.3%)、「サービス事業所の人」(7.3%)、「近所の人」(6.7%)、「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」・「行政機関の相談窓口」(同率 4.8%)、「通園施設や保育所、学校の先生など」(3.6%)、「障がい者団体や家族会」・「相談支援事業所等民間の相談窓口」(同率 3.0%)、「職場の上司や同僚」(1.8%)、「民生委員・児童委員」(1.2%)などの順となっている。なお、「相談できる人はいない」は1.2%となっている。

年齢別、障害種別でも、すべての層で「家族や親戚」が第1位となっている。

図表 悩みや困ったことの相談先（全体／複数回答）



図表 悩みや困ったことの相談先（全体、年齢、障害種別／複数回答）

（単位：人、％）

	合計	問19 悩みや困ったことの相談先										
		家族や親戚	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	施設の指導員など	サービス事業所の人	障がい者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員	
全体	165	69.1	21.8	6.7	1.8	10.3	7.3	3.0	26.7	4.8	1.2	
年齢	0～19歳	9	100.0	55.6	0.0	11.1	11.1	11.1	33.3	44.4	0.0	0.0
	20～49歳	20	50.0	5.0	0.0	5.0	25.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	50～69歳	42	66.7	31.0	7.1	0.0	11.9	11.9	2.4	31.0	2.4	0.0
	70歳以上	93	71.0	17.2	8.6	1.1	6.5	6.5	0.0	26.9	7.5	2.2
障害種別	身体	112	67.0	18.8	6.3	0.0	8.0	6.3	1.8	25.9	5.4	1.8
	知的	33	66.7	24.2	0.0	6.1	27.3	9.1	9.1	15.2	9.1	0.0
	精神	15	53.3	0.0	0.0	0.0	6.7	26.7	0.0	33.3	20.0	0.0

	合計	問19 悩みや困ったことの相談先						
		通園施設や保育所、学校の先生など	相談支援事業所等民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	相談できない人はいない	無回答	
全体	165	3.6	3.0	4.8	4.2	1.2	13.9	
年齢	0～19歳	9	55.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～49歳	20	0.0	5.0	0.0	10.0	5.0	10.0
	50～69歳	42	0.0	7.1	2.4	7.1	0.0	9.5
	70歳以上	93	0.0	0.0	6.5	2.2	1.1	18.3
障害種別	身体	112	0.9	1.8	3.6	3.6	1.8	17.9
	知的	33	15.2	9.1	6.1	6.1	0.0	6.1
	精神	15	0.0	6.7	13.3	6.7	0.0	33.3

(2) 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先

問 20 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。【複数回答】

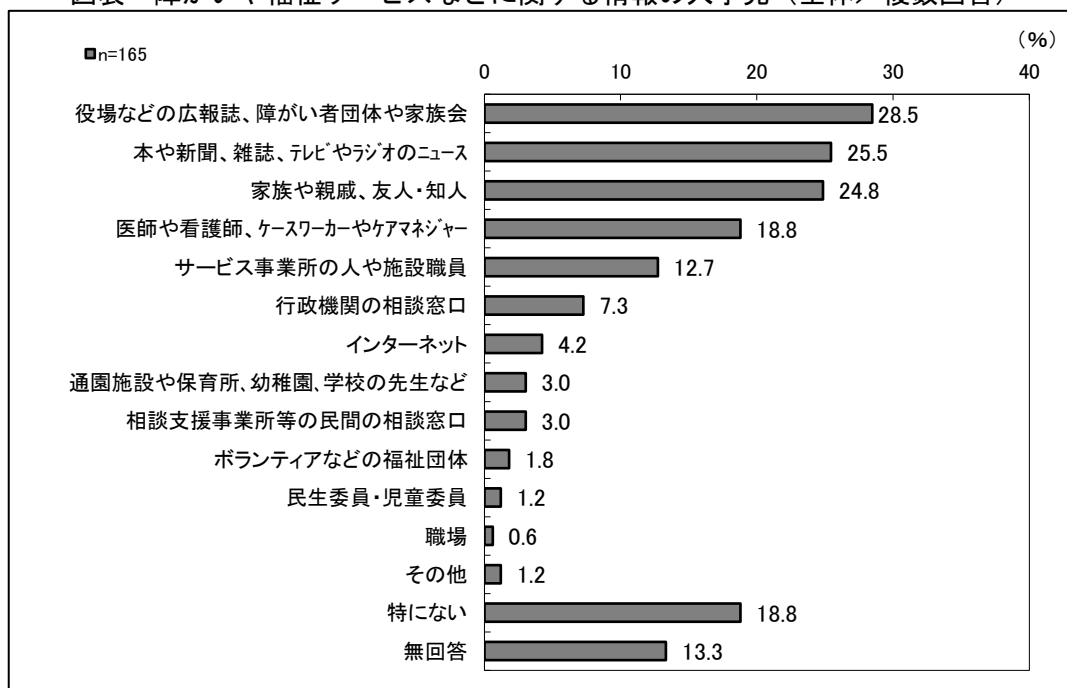
- 「役場などの広報誌、障がい者団体や家族会」が第1位、次いで「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」、「家族や親戚、友人・知人」の順。

障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先については、「役場などの広報誌、障がい者団体や家族会」(28.5%)が第1位、次いで、「本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース」(25.5%)、「家族や親戚、友人・知人」(24.8%)、「医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー」(18.8%)、「サービス事業所の人や施設職員」(12.7%)、「行政機関の相談窓口」(7.3%)、「インターネット」(4.2%)、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生など」・「相談支援事業所等の民間の相談窓口」(同率 3.0%)、「ボランティアなどの福祉団体」(1.8%)、「民生委員・児童委員」(1.2%)、「職場」(0.6%)などの順となっている。なお、「特にない」は18.8%となっている。

年齢別で見ると、0-19歳では「家族や親戚、友人・知人」・「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生など」、20-49歳では「家族や親戚、友人・知人」・「サービス事業所の人や施設職員」、50-69歳、70歳以上では「役場などの広報誌、障がい者団体や家族会」が第1位となっている。

障害種別で見ると、身体では「役場などの広報誌、障がい者団体や家族会」、知的では「サービス事業所の人や施設職員」、精神では「家族や親戚、友人・知人」が第1位となっており、障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先に違いがみられる。

図表 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先（全体／複数回答）



図表 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先
(全体、年齢、障害種別／複数回答)

(単位：人、%)

	合計	問20 障がいや福祉サービスなどに関する情報の入手先										
		本や新聞、雑誌、テレビやラジオのニュース	インターネット	家族や親戚、友人・知人	サービス事業所の人や施設職員	役場などの広報誌、障がい者団体や家族会	医師や看護師、ケースワーカーやケアマネジャー	民生委員・児童委員	通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生など	相談支援事業所等の民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	
全体	165	25.5	4.2	24.8	12.7	28.5	18.8	1.2	3.0	3.0	7.3	
年齢	0～19歳	9	22.2	22.2	44.4	11.1	33.3	33.3	0.0	44.4	11.1	11.1
	20～49歳	20	15.0	15.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～69歳	42	19.0	4.8	16.7	16.7	28.6	16.7	0.0	0.0	9.5	7.1
	70歳以上	93	31.2	0.0	28.0	9.7	33.3	22.6	2.2	0.0	0.0	7.5
障害種別	身体	112	28.6	1.8	24.1	11.6	29.5	21.4	1.8	0.9	2.7	4.5
	知的	33	6.1	9.1	18.2	24.2	12.1	12.1	0.0	12.1	9.1	9.1
	精神	15	6.7	0.0	26.7	13.3	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7

	合計	問20					
		ボランティアなどの福祉団体	職場	その他	特にない	無回答	
全体	165	1.8	0.6	1.2	18.8	13.3	
年齢	0～19歳	9	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0
	20～49歳	20	0.0	0.0	0.0	35.0	15.0
	50～69歳	42	0.0	2.4	2.4	14.3	11.9
	70歳以上	93	3.2	0.0	1.1	17.2	15.1
障害種別	身体	112	1.8	0.0	0.9	17.9	16.1
	知的	33	0.0	3.0	0.0	33.3	9.1
	精神	15	0.0	0.0	0.0	20.0	26.7

(3) 今後特に充実してほしい情報

問 21 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何か。【複数回答】

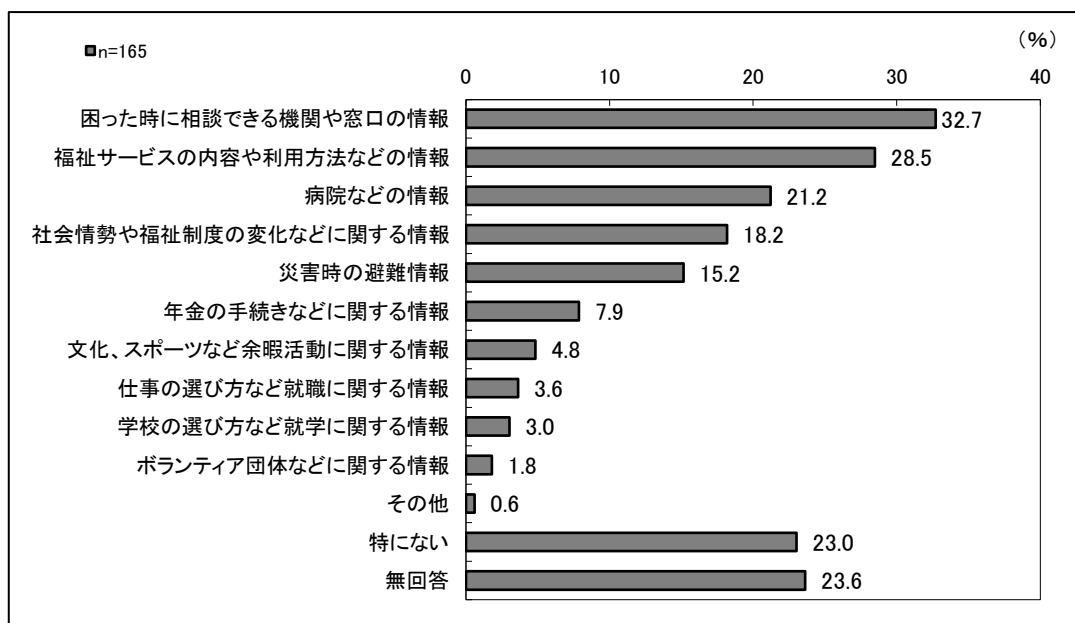
- 具体的には、「困った時に相談できる機関や窓口の情報」が第1位、次いで「福祉サービスの内容や利用方法などの情報」、「病院などの情報」の順。

今後特に充実してほしい情報については、「困った時に相談できる機関や窓口の情報」(32.7%)が第1位、次いで、「福祉サービスの内容や利用方法などの情報」(28.5%)、「病院などの情報」(21.2%)、「社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報」(18.2%)、「災害時の避難情報」(15.2%)、「年金の手続きなどに関する情報」(7.9%)、「文化、スポーツなど余暇活動に関する情報」(4.8%)、「仕事の選び方など就職に関する情報」(3.6%)、「学校の選び方など就学に関する情報」(3.0%)、「ボランティア団体などに関する情報」(1.8%)などの順となっている。なお、「特にない」は23.0%となっている。

年齢別でみると、0-19歳、50-69歳では「困った時に相談できる機関や窓口の情報」、20-49歳では「困った時に相談できる機関や窓口の情報」・「災害時の避難情報」(同率)、70歳以上では「福祉サービスの内容や利用方法などの情報」が第1位となっている。

障害種別でみると、身体では「福祉サービスの内容や利用方法などの情報」、知的では「困った時に相談できる機関や窓口の情報」、精神では「困った時に相談できる機関や窓口の情報」・「病院などの情報」(同率)が第1位となっており、充実してほしい情報の内容に違いがみられる。

図表 今後特に充実してほしい情報（全体／複数回答）



図表 今後特に充実してほしい情報（全体、年齢、障害種別／複数回答）

（単位：人、％）

	合計	問21 今後特に充実してほしい情報										
		社会情勢や福祉制度の変化などに関する情報	福祉サービスの内容や利用方法などの情報	困った時に相談できる機関や窓口の情報	学校の選び方など就学に関する情報	仕事の選び方など就職に関する情報	文化、スポーツなど余暇活動に関する情報	災害時の避難情報	ボランティア団体などに関する情報	病院などの情報	年金の手続きなどに関する情報	
全体	165	18.2	28.5	32.7	3.0	3.6	4.8	15.2	1.8	21.2	7.9	
年齢	0～19歳	9	22.2	33.3	66.7	55.6	11.1	22.2	11.1	0.0	22.2	33.3
	20～49歳	20	10.0	15.0	20.0	0.0	5.0	5.0	20.0	5.0	10.0	10.0
	50～69歳	42	23.8	28.6	40.5	0.0	9.5	7.1	16.7	2.4	28.6	9.5
	70歳以上	93	17.2	30.1	28.0	0.0	0.0	2.2	14.0	1.1	19.4	3.2
障害種別	身体	112	18.8	30.4	29.5	0.9	1.8	3.6	13.4	1.8	17.9	2.7
	知的	33	9.1	24.2	33.3	9.1	6.1	9.1	18.2	0.0	12.1	15.2
	精神	15	13.3	20.0	26.7	0.0	0.0	6.7	20.0	0.0	26.7	20.0

	合計	問21			
		その他	特にない	無回答	
全体	165	0.6	23.0	23.6	
年齢	0～19歳	9	0.0	0.0	0.0
	20～49歳	20	0.0	40.0	25.0
	50～69歳	42	0.0	19.0	26.2
	70歳以上	93	1.1	23.7	24.7
障害種別	身体	112	0.9	22.3	25.9
	知的	33	0.0	30.3	15.2
	精神	15	0.0	26.7	33.3

8 災害時の避難などについて

(1) 火事や災害時に一人で避難できるか

問 22 あなたは、火事や地震などの災害時に一人で避難できますか。

- 「できる」が約5割。

火事や災害時に一人で避難できるかたずねたところ、「できる」が49.7%、「できない」が26.7%、「わからない」が17.0%となっている。

年齢別でみると、「できない」の割合は、0-19歳で7割弱となっており、他の年齢層より高くなっている。

障害種別でみると、「できない」の割合は、知的では4割台半ばとなっており、身体、精神より高くなっている。

図表 火事や災害時に一人で避難できるか（全体、年齢、障害種別）

	(%)	できる	できない	わからない	無回答	n
全体		49.7	26.7	17.0	6.7	165
年齢	0~19歳	22.2	66.7	11.1	0.0	9
	20~49歳	50.0	30.0	15.0	5.0	20
	50~69歳	54.8	21.4	19.0	4.8	42
	70歳以上	50.5	23.7	17.2	8.6	93
手帳の種類	身体	47.3	26.8	16.1	9.8	112
	知的	33.3	45.5	18.2	3.0	33
	精神	46.7	20.0	20.0	13.3	15

(2) 災害時に頼れる人は誰か

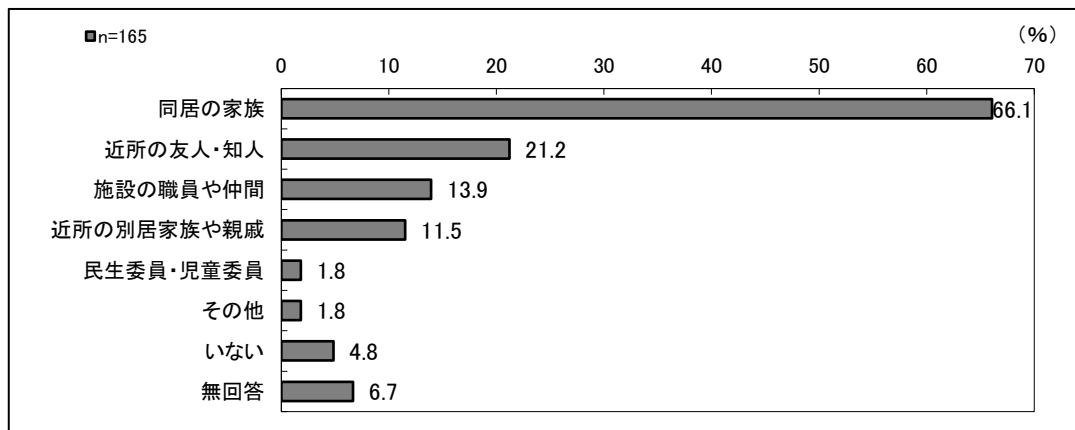
問23 地震や台風などの大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人は誰ですか。
【複数回答】

- 「同居の家族」が他を引き離して第1位。

災害時に頼れる人は誰かたずねたところ、「同居の家族」(66.1%)が第1位、次いで、「近所の友人・知人」(21.2%)、「施設の職員や仲間」(13.9%)、「近所の別居家族や親戚」(11.5%)、「民生委員・児童委員」(同率1.8%)などの順となっている。なお、「いない」は4.8%となっている。

性別、年齢別でも、ほとんどの層で「同居の家族」が第1位となっているが、20～49歳では「施設の職員や仲間」が第1位となっている。

図表 災害時に頼れる人は誰か（全体／複数回答）



図表 災害時に頼れる人は誰か（全体、年齢、障害種別／複数回答）

(単位：人、%)

	合計	問23 災害時に頼れる人は誰か							
		同居の家 族	近所の別 居家族や 親戚	近所の友 人・知人	民生委 員・児童 委員	施設の職 員や仲間	その他	いない	無回答
全体	165	66.1	11.5	21.2	1.8	13.9	1.8	4.8	6.7
年齢	0～19歳	9	100.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～49歳	20	45.0	10.0	5.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	50～69歳	42	59.5	14.3	21.4	2.4	16.7	2.4	7.1
	70歳以上	93	69.9	11.8	25.8	2.2	6.5	2.2	5.4
障害種別	身体	112	64.3	13.4	25.0	1.8	10.7	1.8	3.6
	知的	33	57.6	3.0	3.0	3.0	36.4	3.0	0.0
	精神	15	40.0	0.0	13.3	6.7	26.7	0.0	26.7

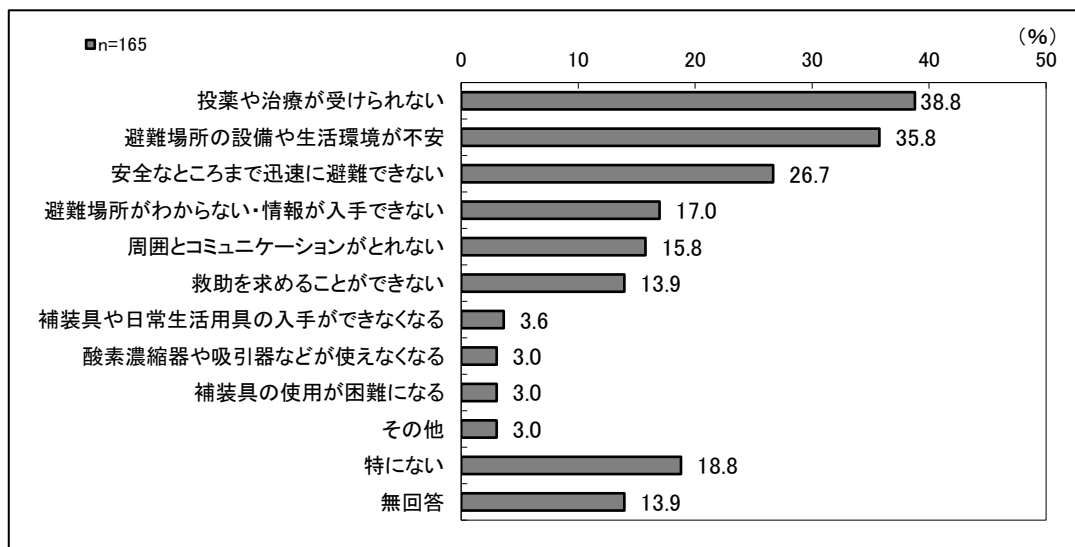
(3) 災害時に困ること

問 24 火事や地震などの災害時に困ることは何ですか。【複数回答】

- 「投薬や治療が受けられない」が第1位、次いで「避難場所の設備や生活環境が不安」、「安全なところまで迅速に避難できない」の順。

災害時に困ることについては、「投薬や治療が受けられない」(38.8%)が第1位、次いで、「避難場所の設備や生活環境が不安」(35.8%)、「安全なところまで迅速に避難できない」(26.7%)、「避難場所がわからない・情報が入手できない」(17.0%)、「周囲とコミュニケーションがとれない」(15.8%)、「救助を求めることができない」(13.9%)、「補装具や日常生活用具の入手ができなくなる」(3.6%)、「酸素濃縮器や吸引器などが使えなくなる」・「補装具の使用が困難になる」(同率3.0%)などの順となっている。なお、「特にない」は18.8%となっている。

図表 災害時に困ること (全体/複数回答)



9 療育・教育・保育について

(1) 子どもの療育や教育について困っていること

【問 25～問 28 は、障がいのある子ども（18 歳未満）をお持ちの保護者（介助者）の方にかがいます。それ以外の方は問 29 へお進みください。】

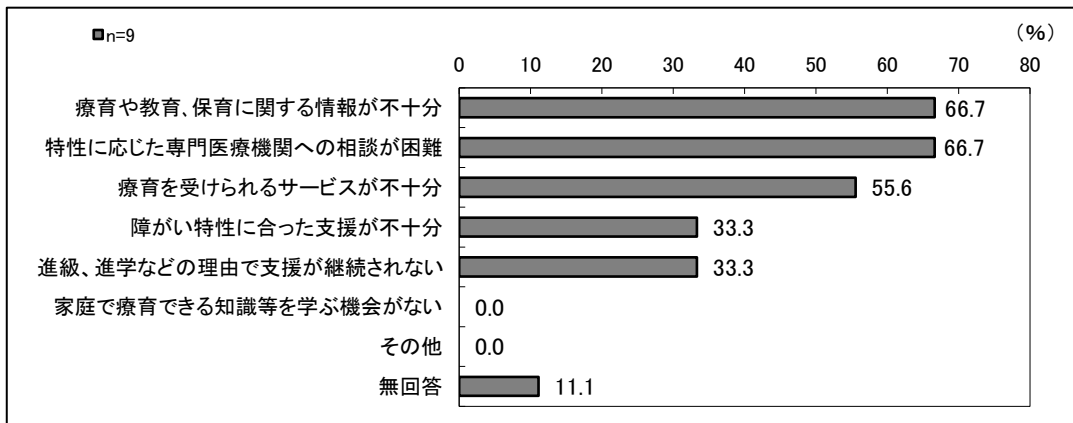
問 25 障がいのある子どもの療育や教育について、困っていることをお答えください。

【複数回答】

- 「療育や教育、保育に関する情報が不十分」・「特性に応じた専門医療機関への相談が困難」（同率）が第 1 位、次いで、「療育を受けられるサービスが不十分」の順。

子どもの療育や教育について困っていることについては、「療育や教育、保育に関する情報が不十分」・「特性に応じた専門医療機関への相談が困難」（同率 66.7%）、「療育を受けられるサービスが不十分」（55.6%）、「障がい特性に合った支援が不十分」・「進級、進学などの理由で支援が継続されない」（同率 33.3%）の順となっている。

図表 子どもの療育や教育について困っていること（全体／複数回答）



(2) 将来どのように生活してほしいか

問 26 将来、どのように生活してほしいと思いますか。

- 「そのまま生活してほしい」・「家族と一緒に生活してほしい」(同率)が2割強。

将来どのように生活してほしいかたずねたところ、「そのまま生活してほしい」・「家族と一緒に生活してほしい」(同率 22.2%) が最も多く、次いで、「グループホームなどを利用してほしい」・「一人暮らしなどをしてほしい」(同率 11.1%) などとなっている。

図表 将来どのように生活してほしいか (全体)

(%)	そのまま生活してほしい	グループホームなどを利用してほしい	家族と一緒に生活してほしい	専門的な医療機関や施設で過ごしてほしい	一人暮らしなどをしてほしい	その他	無回答	n
全体	22.2	11.1	22.2	11.1	33.3	0.0	9	

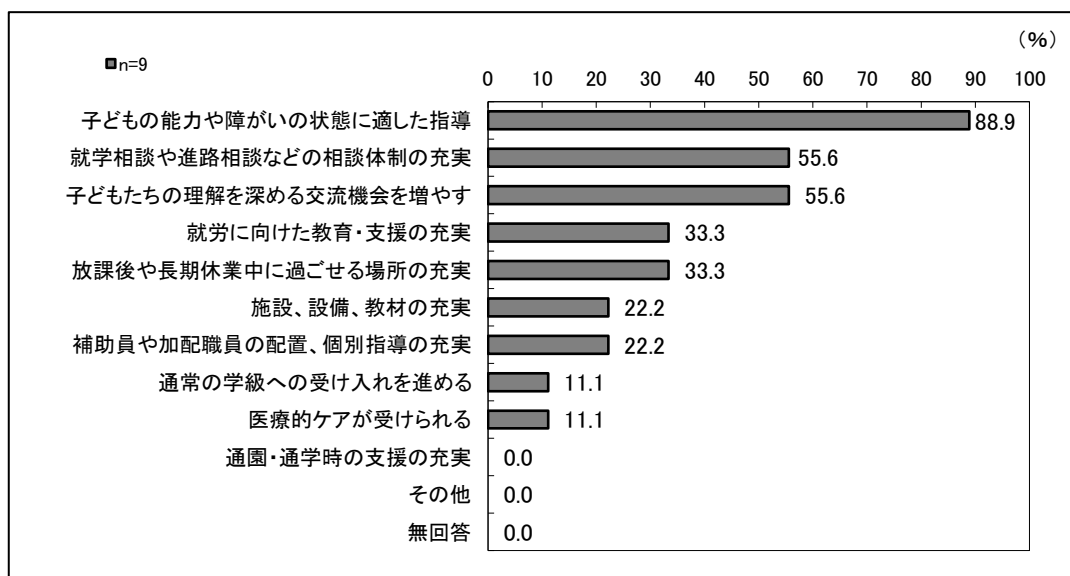
(3) 保育所・幼稚園・学校等で充実してほしいこと

問 27 保育所・幼稚園・学校や通園センターについて、どのようなことを充実してほしいと思いますか。【複数回答】

- 「子どもの能力や障がいの状態に適した指導」が他を引き離して第1位。

保育所・幼稚園・学校等で充実してほしいことについては、「子どもの能力や障がいの状態に適した指導」(88.9%)が第1位、次いで、「就学相談や進路相談などの相談体制の充実」・「子どもたちの理解を深める交流機会を増やす」(同率 55.6%)、「就労に向けた教育・支援の充実」・「放課後や長期休業中に過ごせる場所の充実」(同率 33.3%)、「施設、設備、教材の充実」・「補助員や加配職員の配置、個別指導の充実」(同率 22.2%)、「通常の学級への受け入れを進める」・「医療的ケアが受けられる」(同率 11.1%)などの順となっている。

図表 保育所・幼稚園・学校等で充実してほしいこと（全体／複数回答）



(4) 子どもの将来に向けて不安や心配なこと

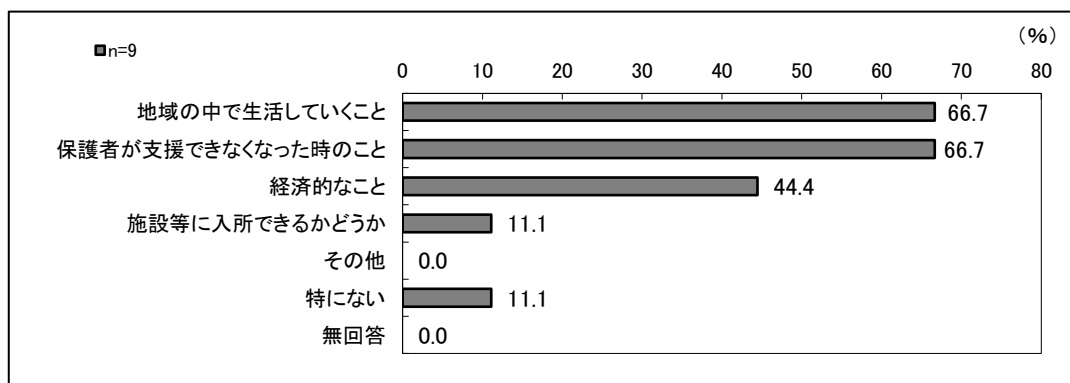
問 28 保護者の方が、障がいのある子どもの将来に向けて、不安や心配していることは何ですか。【複数回答】



- 「地域の中で生活していくこと」・「保護者が支援できなくなった時のこと」(同率)が第1位、次いで、「経済的なこと」の順。

子どもの将来に向けて不安や心配なことについては、「地域の中で生活していくこと」・「保護者が支援できなくなった時のこと」(同率 66.7%)、「経済的なこと」(44.4%)、「施設等に入所できるかどうか」(11.1%)となっている。なお、「特にない」は 11.1%となっている。

図表 子どもの将来に向けて不安や心配なこと (全体、障害種別)



10 権利擁護について

(1) 差別を受けたり嫌な思いをしたこと

問 29 あなたは障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いをしたりする（した）ことがありますか。

- 「ない」が5割弱。

差別を受けたり嫌な思いをしたことについてたずねたところ、「ない」が46.7%、「少しある」が10.9%、「ある」が9.1%となっている。

図表 差別を受けたり嫌な思いをしたこと（全体）

(%)	ある	少しある	ない	無回答	n
全体	9.1	10.9	46.7	33.3	165

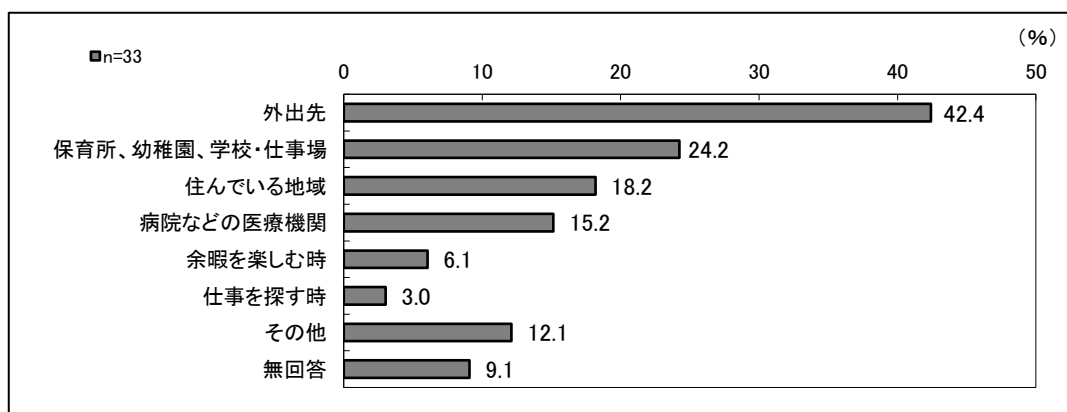
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場所

【問 29-1 は、問 29 で「1」または「2」に○をつけた方にかがいます。】
問 29-1 どのような場所で差別を受けたり、嫌な思いをしたりしましたか。【複数回答】

- 「外出先」が他を引き離して第1位。

差別を受けたり嫌な思いをした場所については、「外出先」(42.4%)が第1位、次いで、「保育所、幼稚園、学校・仕事場」(24.2%)、「住んでいる地域」(18.2%)、「病院などの医療機関」(15.2%)、「余暇を楽しむ時」(6.1%)、「仕事を探す時」(3.0%)などの順となっている。

図表 差別を受けたり嫌な思いをした場所（全体／複数回答）



(3) 成年後見制度について

問 30 成年後見制度についてご存知ですか。

- 「名前も内容も知らない」が3割強。

成年後見制度については、「名前も内容も知らない」が 32.7%、「名前も内容も知っている」が 20.0%、「名前を聞いたことがあるが内容は知らない」が 18.2%となっている。

年齢別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は、20-49 歳では4割台半ばとなっているなど、総じて、他の年齢層より認知度が低い

障害種別でみると、精神では「名前も内容も知らない」の割合が5割強となっているなど、総じて、身体、知的より認知度が低い。

図表 成年後見制度について（全体、年齢、障害種別）

		名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	n
(%)						
全体		20.0	18.2	32.7	29.1	165
年齢	0～19歳	33.3	0.0	33.3	33.3	9
	20～49歳	15.0	5.0	45.0	35.0	20
	50～69歳	23.8	16.7	42.9	16.7	42
	70歳以上	17.2	20.4	25.8	36.6	93
手帳の種類	身体	17.0	17.9	29.5	35.7	112
	知的	15.2	12.1	42.4	30.3	33
	精神	13.3	6.7	53.3	26.7	15

(4) 成年後見制度の利用状況・利用意向

問 31 成年後見制度を利用したいと思いますか。

- 「今は必要ないが将来必要なら利用したい」が3割弱。

成年後見制度の利用状況・利用意向についてたずねたところ、「今は必要ないが将来必要なら利用したい」(27.3%)が最も多く、次いで、「利用したいとは思わない」(18.8%)、「既に利用している」(3.6%)となっている。なお、「わからない」は24.8%となっている。

年齢別、障害種別でも、「既に利用している」の割合は、すべての層において1割に満たないが、知的では「今は必要ないが将来必要なら利用したい」が約3割となっているなど、将来的なニーズは一定程度見込まれる。

図表 成年後見制度の利用状況・利用意向（全体、年齢別、障害種別）

	既に利用している	今は必要ないが将来必要なら利用したい	利用したいとは思わない	わからない	無回答	n
(%)						
全体	3.6	27.3	18.8	24.8	25.5	165
年齢						
0～19歳	0.0	77.8	11.1	11.1	0.0	9
20～49歳	5.0	20.0	20.0	30.0	25.0	20
50～69歳	4.8	28.6	16.7	33.3	16.7	42
70歳以上	3.2	22.6	20.4	21.5	32.3	93
手帳の種類						
身体	4.5	23.2	18.8	20.5	33.0	112
知的	0.0	9.1	30.3	9.1	27.3	33
精神	0.0	26.7	20.0	26.7	26.7	15